

【 科目等履修生・学部聴講生 】

※2023年3月8日現在

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生	(学部)聴講生		
日本史学	6601001	系共通科目(日本史学)(講義)	4	通年	火	2			上島 享	日本語	○	○	歴史基礎文化学系1	
日本史学	6631001	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	2			谷川 輝	日本語	○	○	歴史基礎文化学系2	
日本史学	6631002	日本史学(特殊講義)	2	後期	火	4			三宅 正浩	日本語	○	○	歴史基礎文化学系3	
日本史学	6631003	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	4			吉川 真司	日本語	○	○	歴史基礎文化学系4	
日本史学	6631004	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	2			岩城 卓二	日本語	○	○	歴史基礎文化学系5	
日本史学	6631005	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	2			岩城 卓二	日本語	○	○	歴史基礎文化学系6	
日本史学	6631006	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	4			福家 崇洋	日本語	○	○	歴史基礎文化学系7	
日本史学	6631007	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	4			市 大樹	日本語	○	○	歴史基礎文化学系8	
日本史学	6631008	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	3			岩崎 泰緒子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系9	
日本史学	6631009	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	4			仁木 宏	日本語	○	○	歴史基礎文化学系10	
日本史学	6631010	日本史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			能川 泰治	日本語	○	○	歴史基礎文化学系11	
日本史学	6631011	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	4			原谷 智	日本語	○	○	歴史基礎文化学系12	
日本史学	6631014	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	○	歴史基礎文化学系13	
日本史学	6631015	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	○	歴史基礎文化学系14	
日本史学	6631016	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	2			吉江 崇	日本語	○	○	歴史基礎文化学系15	
日本史学	6631017	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	2			吉江 崇	日本語	○	○	歴史基礎文化学系16	
日本史学	6631018	日本史学(特殊講義)	2	後期	火	4			藤目 ゆき	日本語	○	○	歴史基礎文化学系17	
日本史学	6631019	日本史学(特殊講義)	2	後期	金	2			人見 佐知子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系18	
東洋史学	6701001	系共通科目(東洋史学)(講義)	4	通年	火	2			吉本 道雅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系19	
東洋史学	6731001	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			吉本 道雅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系20	
東洋史学	6731002	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			吉本 道雅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系21	
東洋史学	6731003	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	4			中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系22	
東洋史学	6731004	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4			中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系23	
東洋史学	6731009	東洋史学(特殊講義)	2	前期	木	5			稲田 恵子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系24	
東洋史学	6731010	東洋史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			須藤 端代	日本語	○	○	歴史基礎文化学系25	
東洋史学	6731013	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	1			矢木 毅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系26	
東洋史学	6731014	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	1			矢木 毅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系27	
東洋史学	6731018	東洋史学(特殊講義)	2	前期	水	4			承 志	日本語	○	○	歴史基礎文化学系28	
東洋史学	6731019	東洋史学(特殊講義)	2	後期	水	4			承 志	日本語	○	○	歴史基礎文化学系29	
東洋史学	6731023	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	○	歴史基礎文化学系30	
東洋史学	6731024	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	○	歴史基礎文化学系31	
東洋史学	6731027	東洋史学(特殊講義)	2	前期	水	1			古松 崇志	日本語	○	○	歴史基礎文化学系32	
東洋史学	6731028	東洋史学(特殊講義)	2	後期	水	1			古松 崇志	日本語	○	○	歴史基礎文化学系33	
東洋史学	6741001	東洋史学(演習)	2	前期	金	3			吉本 道雅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系34	
東洋史学	6741002	東洋史学(演習)	2	後期	金	3			吉本 道雅	日本語	○	○	歴史基礎文化学系35	
東洋史学	6743001	東洋史学(演習II)	2	前期	火	5			中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系36	
東洋史学	6743002	東洋史学(演習II)	2	後期	火	5			中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系37	
東洋史学	6750001	東洋史学(講義)	4	通年	水	4			中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系38	
東洋史学	6750002	東洋史学(講義)	4	通年	水	2			中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系39	
東洋史学	6761001	東洋史学(実習)	2	通年	水	5			吉本 道雅, 中砂 明徳	日本語	○	○	歴史基礎文化学系40	
西南アジア史学	6801001	系共通科目(西南アジア史学)(講義)	4	通年	水	2			磯貝 健一	日本語	○	○	歴史基礎文化学系41	
西南アジア史学	6831004	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	木	3			仁子 寿晴	日本語	○	○	歴史基礎文化学系42	
西南アジア史学	6831005	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	月	3			山口 元樹	日本語	○	○	歴史基礎文化学系43	
西南アジア史学	6831006	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	火	4			岩本 佳子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系44	
西南アジア史学	6831007	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	水	2			齋谷 知可	日本語	○	○	歴史基礎文化学系45	
西南アジア史学	6831009	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			野田 仁	日本語	○	○	歴史基礎文化学系46	
西南アジア史学	6831011	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	火	4			岩本 佳子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系47	
西南アジア史学	6840001	西南アジア史学(演習I)	4	通年	火	3			岩本 佳子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系48	
西南アジア史学	6842001	西南アジア史学(演習II)	4	通年	火	2			磯貝 健一	日本語	○	○	歴史基礎文化学系49	
西南アジア史学	6844001	西南アジア史学(演習II)	2	前期	金	3			伊藤 隆郎	日本語	○	○	歴史基礎文化学系50	
西南アジア史学	6844002	西南アジア史学(演習II)	2	後期	金	3			伊藤 隆郎	日本語	○	○	歴史基礎文化学系51	
西南アジア史学	6850001	西南アジア史学(講義)	4	通年	金	1			今松 泰	日本語	○	○	歴史基礎文化学系52	
西南アジア史学	6851002	西南アジア史学(講義)	2	前期	月	2			磯貝 健一	日本語	○	○	歴史基礎文化学系53	
西南アジア史学	6851003	西南アジア史学(講義)	2	後期	月	2			稲葉 稜	日本語	○	○	歴史基礎文化学系54	
西南アジア史学	6861001	西南アジア史学(実習)	1	後期	月	4			磯貝 健一	日本語	○	○	歴史基礎文化学系55	
西南アジア史学	6861002	西南アジア史学(実習)	1	前期	月	4			磯貝 健一	日本語	○	○	歴史基礎文化学系56	
西南アジア史学	9608001	イラン語(初級)(語学)	4	通年	金	2			杉山 雅樹	日本語	○	○	歴史基礎文化学系57	
西南アジア史学	6842002	西南アジア史学(演習II)	4	通年	水	3			岩本 佳子	日本語	○	○	歴史基礎文化学系58	
西洋史学	6901001	系共通科目(西洋史学)(講義)	4	通年	水	5			小山 哲	日本語	○	○	歴史基礎文化学系59	
西洋史学	6931003	西洋史学(特殊講義)	2	後期	木	2			真生 久嗣	日本語	○	○	歴史基礎文化学系60	
西洋史学	6931004	西洋史学(特殊講義)	2	後期	木	5			阿部 俊大	日本語	○	○	歴史基礎文化学系61	
西洋史学	6931005	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	○	歴史基礎文化学系62	
西洋史学	6931006	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	○	歴史基礎文化学系63	
西洋史学	6931007	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	○	歴史基礎文化学系64	
西洋史学	6931008	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	○	歴史基礎文化学系65	
西洋史学	6931009	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			衣笠 太郎	日本語	○	○	歴史基礎文化学系66	
西洋史学	6931010	西洋史学(特殊講義)	2	後期	金	3			佐藤 公美	日本語	○	○	歴史基礎文化学系67	
西洋史学	6931011	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	4			小関 隆	日本語	○	○	歴史基礎文化学系68	
西洋史学	6931012	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	4			小関 隆	日本語	○	○	歴史基礎文化学系69	
西洋史学	6931014	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	○	歴史基礎文化学系70	
西洋史学	6931015	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	○	歴史基礎文化学系71	
西洋史学	6931016	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	4			岸本 廣大	日本語	○	○	歴史基礎文化学系72	
西洋史学	6931017	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4			桑山 由文	日本語	○	○	歴史基礎文化学系73	
西洋史学	6931018	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	3			金澤 周作	日本語	○	○	歴史基礎文化学系74	
西洋史学	6931019	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	3			金澤 周作	日本語	○	○	歴史基礎文化学系75	
西洋史学	6956001	西洋史学(講義)	2	前期	月	2			小俣 水一 日登美	日本語	○	○	歴史基礎文化学系76	
西洋史学	6956002	西洋史学(講義)	2	後期	月	2			小俣 水一 日登美	日本語	○	○	歴史基礎文化学系77	
西洋史学	6957001	西洋史学(講義)	2	前期	木	1			小山 哲	日本語	○	○	歴史基礎文化学系78	
西洋史学	6957002	西洋史学(講義)	2	後期	木	1			小山 哲	日本語	○	○	歴史基礎文化学系79	
西洋史学	6958001	西洋史学(講義)	2	前期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	○	歴史基礎文化学系80	
西洋史学	6958002	西洋史学(講義)	2	後期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	○	歴史基礎文化学系81	
西洋史学	6961001	西洋史学(講義)	2	前期	火	4			小山 哲	日本語	○	○	歴史基礎文化学系82	
西洋史学	6971001	西洋史学(演習I)	2	前期	金	5			藤井 崇	日本語	○	○	歴史基礎文化学系83	
西洋史学	6971002	西洋史学(演習I)	2	後期	金	5			藤井 崇	日本語	○	○	歴史基礎文化学系84	
西洋史学	6972001	西洋史学(演習II)	2	前期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	○	歴史基礎文化学系85	
西洋史学	6972002	西洋史学(演習II)	2	後期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	○	歴史基礎文化学系86	
西洋史学	6973001	西洋史学(演習III)	2	前期	金	5			小山 哲, 安平 茲司	日本語	○	○	歴史基礎文化学系87	
西洋史学	6973002	西洋史学(演習III)	2	後期	金	5			小山 哲, 安平 茲司	日本語	○	○	歴史基礎文化学系88	
西洋史学	6974001	西洋史学(演習IV)	2	前期	金	5			金澤 周作	日本語	○	○	歴史基礎文化学系89	
西洋史学	6974002	西洋史学(演習IV)	2	後期	金	5			金澤 周作	日本語	○	○	歴史基礎文化学系90	
西洋史学	6931001	西洋史学(特殊講義)	2	前期	金	3			佐藤 公美	日本語	○	○	歴史基礎文化学系91	
西洋史学	6931002	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	3			安平 茲司	日本語	○</			

歴史基礎文化学系1

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本史学史・日本中世史概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、日本史学史概論（主に前期）と日本中世史概論（主に後期）のふたつのテーマを扱う。日本史学史概論では、主に明治以降の近代史学のあゆみを振り返りながら、古代・中世・近世という時期区分論の形成や京都大学における日本史学の特色などについて論じたい。次に、日本中世史概論では、中世社会の形成から解体までの約600年間の歴史をテーマごとに通観する。特に、中世社会の形成と転換を政治・社会・経済・文化・宗教の側面から具体的に論じ、それらの歴史的意義を明確にしたい。随時、自身の最新の研究成果も盛り込む予定である。なお、本講義は、日本史全体の研究入門という役割ももっている。</p>											
【到達目標】											
日本史学および日本中世史に関する基本的な知識を身につけるとともに、新たな歴史認識を獲得するための方法を体得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、自身の研究の進捗状況に応じて、新たなテーマも盛り込む予定である。そのため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えたい。</p> <p>第1回 本講義の視角と問題意識</p> <p>第2～9回目：日本史学史概論 第2回 日本史における時期区分 第3回 前近代・明治期における日本史研究 第4回 草創期における京都大学の日本史研究 第5回 大正・昭和期（戦前）における日本史研究 第6回 戦後歴史学と日本史研究 第7回 研究視角の転換と新たな潮流 第8回 近年の日本史研究の動向と課題 第9回 小括</p> <p>第10～30回：日本中世史概論 第10回 中世 という時代をどう考えるのか 第11回 アジア世界の変化と日本 第12回 火災の発生と貴族生活の変化 『源氏物語』の時代 第13回 大規模造営の時代 第14回 新たな神祇秩序の形成 第15回 藤原道長と院政 第16回 中世仏教の成立 顕教と密教 第17回 荘園制の形成と国家財政</p>											
----- 系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第18回 都鄙間交流の展開
第19回 治承・寿永の内乱の歴史的意義 鎌倉幕府の成立
第20回 小括 古代社会から中世社会へ
- 第21回 鎌倉前期の社会と承久の乱
第22回 平安後期・鎌倉前期文化の特質
第23回 モンゴルインパクトと社会の変化
第24回 宋代禅と中世仏教の転換
第25回 南北朝動乱の歴史的意義
第26回 室町期の政治・社会経済・文化
第27回 応仁の乱の歴史的意義
第28回 戦国期社会へ
第29回 中世における神仏習合の展開
第30回 総括 世界史のなかの日本史

[履修要件]

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(2回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
上島享『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
上島享ほか編『論点・日本史学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623093496
その他は必要に応じて指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で参考文献等を示すので、積極的に読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系2

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明治期の国民教化再考									
【授業の概要・目的】											
かつて政治学者の藤田省三は、戦前期の天皇制国家を「無比の教化国家」と評した。イデオロギー政策が全国に張り巡らされた様子をそう見なせるとしても、その「教化」の成果とは何であるのか、何をもちて成功したと言えるのかは、実は一筋縄ではいかない非常な難題でありつづけている。本講義は、近代日本における国民教化政策を、明治初期に遡って改めてとらえなおし、昭和期に及ぶその政策の構造を宗教や教育との関わりとともに実証的に把握することを目指す。											
【到達目標】											
明治期を中心に大正・昭和期へ至る国民教化政策の系譜をたどることで、近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の基礎能力を得ることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回はイントロダクション、最終回は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1~2回講じる予定であるが、受講生の理解に応じて折々組み替えることもある。 <ul style="list-style-type: none"> ・「御一新」と「宣教使」 ・教部省と神仏合同教化政策 ・大教院体制下の僧侶と教員 ・自由民権運動と「徳育不十分」論 ・国語教科書を通じた国体思想の普及 ・「教育勅語」へのノからの道 ・宗教教育禁止訓令とその実際 ・地方改良と感化救済 ・「児童の世紀」の希望と隘路 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポート（70%）と授業中に実施予定の小レポート（30%）で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学の手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。											
【教科書】											
授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系3

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世国家の構造・特質を意識しつつ、譜代大名と旗本について、近世成立期を中心に分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を獲得する。期末には、自分なりに、個別の史料をとりあげて読み込み、日本史学の方法論に基づいてレポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.導入 近世大名をどう捉えるか 【2週】 2.譜代大名・旗本研究の先行研究と課題【2週】 3.近世国家における譜代大名・旗本の位置づけについての分析【5週】 4.個別事例からみる譜代大名【5週】 5.まとめと総括【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、自分で史料をとりあげて分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系4

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		行基四十九院の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代の律令体制を研究する上では、制度史研究が生み出してきた幻影を打ち払うためにも、政治・社会・文化の実態を捉えていくことが肝要である。その際に有効な視角の一つとして、寺院史研究を挙げることができる。仏教は律令体制のイデオロギー的基軸であり、寺院・僧尼については多彩な実態的史料が残されている。</p> <p>そこで本講義では、古代を代表する民間布教僧・行基が建立した寺院（いわゆる四十九院）について、文献史学・考古学・歴史地理学の方法による総合的検討を行なう。彼の宗教活動の特質を明らかにするとともに、それを支えた地域社会の実相を見きわめ、律令体制とその時代を深く理解する一助としたい。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しい説明を加えたり、新しい発見を紹介したりすることもあるため、それぞれの内容・回数については柔軟に考えることにする。なお、これらの週数には休日に実施する現地見学を含み、その際には平常授業を振り替える。</p> <p>01～02週 イン트로ダクション</p> <p>03～14週 行基四十九院の個別的検討：下記寺院について1～2週ずつ講じる。 ：生馬院、石凝院、大野寺、狭山池院、昆陽池院、菩提院、菅原寺</p> <p>15週 総括と展望</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

現地見学を行なうので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系5

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		18世紀近世社会論									
[授業の概要・目的]											
18世紀とはどのような社会であったのか。石見銀山を支配するために陣屋が置かれた大森町を対象に、「成熟」した近世社会の諸相と、19世紀初頭までも含め「変質」過程について、掛屋を務めた熊谷家を中心に考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
1, 石見銀山と銀山附幕領(1回) 2, 熊谷家の歴史(3回) 3, 掛屋一件(7回) 4, 幕領支配の変質(3回) 5, まとめと総括(1回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を必要とする。											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系6

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀近世社会論									
[授業の概要・目的]											
近代への移行がはじまる19世紀とはどのような社会であったのか。石見国西部に配置された幕領飛び地において銅山師を務めた堀家を対象に、近世社会の制度的疲労に対してどのような施策が講じられ、どのような社会が構築されていったのかについて、考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
1, 石見銀山附幕領の飛び地(2回) 2, 銅山師堀家の歴史(2回) 3, 堀家による「取締」の展開(6回) 4, 長州戦争という「危機」(4回) 5, まとめと総括(1回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を必要とする。											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系7

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
<p>明治期から敗戦後までの日本社会運動史について講義を行う。本講義の目的は、近現代日本の社会運動について通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史を複合的・重層的にとらえる視点を育んでくれるとありがたい。</p>											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 明治篇 』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 明治篇 』（ちくま新書、2023年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 大正篇 』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 戦前昭和篇 』（ちくま新書、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系8

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学文学研究科 教授 市 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本古代宮都（その2）									
【授業の概要・目的】											
日本古代史の史料は限られているが、発掘調査を通じて、新たな知見が次々と明らかにされつつある。本講義では、既存の文献史料に加え、新たな考古資料も積極的に活用しながら、飛鳥・奈良時代を中心に宮都の展開過程を跡づけ、日本古代国家の形成・展開過程に迫ってみたい。その際、日本古代史を一国史にとどめるのではなく、東アジア史の文脈のなかに位置づけるように注意したい。											
【到達目標】											
資料の取り扱い方法を習得する。日本古代史の主要な論点を理解する。東アジア史の文脈で、日本古代史像をイメージできるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に下記のように講義を進める予定である。ただし、受講者の理解状況に応じて詳しく説明したり、新たな知見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容などについては柔軟に考えることにする。											
<ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション 古代宮都の概観 2～3、大宝遣唐使のみた唐長安城 4～6、藤原廃都と平城遷都の歩み 7～8、遷都当初における平城宮・京の姿 9～10、交通体系の再編成 11～12、「彷徨の5年間」 13～14、奈良時代後半の平城宮 15、授業全体のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）で総合的に判断する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布して授業をおこなう。

[参考書等]

(参考書)
川尻秋生他 『シリーズ古代史をひらく 古代の都』(岩波書店, 2019年) ISBN:9784000284967
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で言及した参考文献を図書館などで見てみる。飛鳥・平城京などの遺跡を訪れてみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系9

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 岩崎 奈緒子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 11									
[授業の概要・目的]											
日本における植民地主義の起源をさぐる。											
[到達目標]											
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．研究史と本講義の視座【2週】 2．最上徳内のアイヌ描写の特質～松前広長との比較から～【4週】 最上徳内「蝦夷国風俗人情之沙汰」・「渡島筆記」 松前広長「松前志」 3．第一次蝦夷地幕領化政策の特質【2週】 4．本多利明の進歩史観～西川如見・新井白石との比較から～【6週】 本多利明「経世秘策」「西域物語」 西川如見「華夷通商考」 新井白石「采覧異言」「西洋紀聞」「蝦夷志」 5．フィードバック【1週】 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系10

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪公立大学大学院文学研究科 仁木 宏 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世都市史の構造									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の中世都市にかかわる従来の研究を前提に、中世都市史の全体構造を提示する。</p> <p>講師（仁木）は、1980年代以降、京都、宗教都市（寺内町、「山の寺」）、港町、城下町など、中世都市全般について研究してきた。文献史料にもとづきつつ、空間のあり方から都市の性格を分析する手法を採用している。考古学や建築史学の成果に学び、歴史地理学的な手法に多く拠っている。また地域社会における都市の位置づけ、守護や戦国期地域権力・統一政権と都市とのかかわりについても関心をもって研究を進めてきた。本講義では、こうした研究史の結論として「日本中世都市史」がどのように構想できるのかを概観する。</p> <p>具体的には、まず1980年代までの中世都市研究の成果や論点を確認する。ついで講師が注目してきた都市類型を時期ごとにふりかえるなかで、日本中世都市の特色を明らかにする。都市の社会構造は、権力・領主と都市との相互関係、ならびに住民組織のあり方に規定される。それらはまた、各都市の空間構造に反映される、と考える。</p> <p>中世史研究の課題と都市史研究のかかわりにも言及する。中世史研究、中世・近世移行期研究における都市史研究の重要性についても理解してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、卒業論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。</p> <p>第1回 日本中世都市史研究の成果と論点 ; 豊田武、林屋辰三郎、脇田晴子など</p> <p>第2回 日本中世都市史研究の成果と論点 ; 佐々木銀弥、網野善彦など</p> <p>第3回 寺内町 ; 中世都市を「復元」する</p> <p>第4回 寺内町 ; 「寺の論理」と「町（まち）の論理」</p> <p>第5回 京都 ; 都市共同体</p> <p>第6回 京都 ; 権力と都市</p> <p>第7回 京都 ; 首都論</p> <p>第8回 京都 ; 洛中洛外</p> <p>第9回 城下町 ; 「楽市令」批判</p> <p>第10回 城下町 ; 発展段階と多様性</p> <p>第11回 城下町 ; 地域権力・統一権力と地域社会</p> <p>第12回 港町 ; 流通・交通の変化と都市</p> <p>第13回 「山の寺」 ; 宗教と都市</p> <p>第14回 (総括) 日本中世都市史の構造</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポート（50％）と授業のさいに実施予定の小レポート（50％）。
レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じることができているのかを評価基準とする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

仁木 宏 『空間・公・共同体 - 中世都市から近世都市へ - 』（青木書店，1997年）ISBN:4-250-97021-3

仁木 宏 『戦国時代、村と町のかたち』（山川出版社，2004年）ISBN:9784634542600

仁木 宏 『京都の都市共同体と権力』（思文閣出版，2010年）ISBN:978-4-7842-1518-8

その他については、適宜、授業で指示をする。

（関連URL）

<https://researchmap.jp/read0181614>(講師の研究情報を示すリサーチマップ。「書籍等出版物」「論文」のページ参照。)

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
- ・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

（その他（オフィスアワー等））

- ・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系11

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		金沢大学人間社会研究域 教授 能川 泰治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		大阪城の近現代史 - 近代都市史研究として -									
【授業の概要・目的】											
<p>大阪城を建てたのは誰か。この問いに対しては、誰もが豊臣秀吉を思い浮かべるであろう。そのこと自体は誤りではない。それでは、現在の大阪城天守閣はいつ誰が建てたのか。そして、現在の壮大な石垣と濠はいつ築かれたものなのか。そこに秀吉の築いた大坂城の痕跡は残されているのか。現在の大阪城に関する、これらの基本的な問いに対して正確に答えられる人は、意外に少ないように思われる。本講義はこれらの重要論点を、単なる近現代の城郭史としてではなく、近代都市史研究の視点で、当時の国内外の政治・社会の動向をふまえながら語ることを課題とする。</p>											
【到達目標】											
<p>幕末維新から戦後にかけての日本の近現代史について、近代都市史研究の視点で理解を深める。そして、史料の収集・解読方法をはじめとする歴史学の手法を習得し、歴史遺産の保存と活用についての考え方を深化させる。さらに、講義内容を批判的に再考することで自らの論文作成能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>「大阪城の近現代史」というテーマで、幕末維新时期から高度経済成長期にかけての都市史について、下記のような内容で講義する。</p> <p>第1回 開講ガイダンス 第2回 近代都市史研究の現状と課題 第3回 基礎知識習得のための序論 第4回 幕末維新时期の大阪城 第5回 陸軍史料にみる大阪城 第6回 大阪城天守閣復興（その1） 第7回 大阪城天守閣復興（その2） 第8回 大阪城天守閣復興（その3） 第9回 十五年戦争と大阪城（その1） 第10回 十五年戦争と大阪城（その2） 第11回 戦後の大阪城復興（その1） 第12回 戦後の大阪城復興（その2） 第13回 戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その1） 第14回 戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その2） 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。レポートの評価基準については、教室で開示する。

[教科書]

使用しない

毎回の授業で史資料のプリントを配布して解説する。

[参考書等]

(参考書)

岡本良一 『大坂城』 (岩波新書, 1970) ISBN:978-4004131038

渡辺 武 『図説 再見大阪城』 (大阪都市協会, 1983)

木下直之 『わたしの城下町』 (筑摩書房, 2007) ISBN:978-4480098931

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は短期間の集中講義形式で行うので、上記3点の参考書のうちいずれか一つだけでも事前に目を通すと、講義内容が理解しやすくなると思われる。

集中講義終了後に大阪城公園と天守閣を各自で実地見学するのが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系12

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学文学部 教授 東谷 智			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の支配の仕組み									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、江戸時代の藩と大名を素材として、支配の仕組みについて論じる。 参勤交代を行う大名は国元と江戸を往復し、両所に拠点を持つ。江戸と国元、それぞれの拠点での藩政機構のあり方や役割について論じることで、江戸時代の領主について理解を深めたい。講義では、武家文書や地方文書を具体的に示しながら、大名や藩の世界に分け入っていくことから、京都大学総合博物館所蔵の古文書を実験する機会を設けたい。 また大名の儀礼を取り扱うことから、大名御殿の指図（設計図）なども用いるとともに、二条城二の丸御殿の見学など学外講義も行い、空間的把握にも留意したい。</p>											
【到達目標】											
藩と大名について基礎的な知見を得ると共に、史料の基本的な分析が出来るようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大名の姿 3. 大名の家族と交際 4. 大名の官位と役職 5. 江戸の大名屋敷 6. 江戸城における儀礼 7. 国元における城下町 8. 国元の屋敷と儀礼 9. 家臣団 10. 番方と役方 11. 藩政機構 12. 行政の仕組み 13. 機構改編と藩政改革 14. 支配の広がり 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 40%

期末レポート 60%

[教科書]

授業中に指示する
レジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

史料を読む講義を受講することを心懸けて下さい。

期末レポートでは、具体的に史料を分析してもらう課題を出します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系13

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世の西国と東国									
【授業の概要・目的】											
今期は、日本中世史のうち、院政～鎌倉期の「西国」と「東国」をテーマに、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
第1回 古代の五畿七道と北陸道 第2回 平氏政権と「六波羅幕府」 第3回 中世都市・京都 第4回 武家地・六波羅 第5回 平氏政権と畿内近国 第6回 治承・寿永の内乱 第7回 寿永二年一〇月宣旨 第8回 国地頭の設置と停廃(1) 第9回 国地頭の設置と停廃(2) 第10回 関東知行国 第11回 承久の乱 第12回 六波羅管国の形成 第13回 鎌倉幕府支配の西国と東国(1) 第14回 鎌倉幕府支配の西国と東国(2) 第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。#160											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系14

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		伊賀国の古代・中世史									
【授業の概要・目的】											
今期は、伊賀国の古代・中世史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
伊賀国の古代・中世史に関する認識を深めるとともに、政治史・地域史の分析方法を理解する。また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 伊賀国の地勢とその歴史 第2回 東大寺領の誕生前史 第3回 東大寺領の誕生(1) 第4回 東大寺領の誕生(2) 第5回 東大寺領の誕生(3) 第6回 東大寺領の誕生(4) 第7回 東大寺領の誕生(5) 第8回 摂関期における伊賀国の荘園公領 第9回 天喜事件と東大寺領玉滝・黒田荘の確立 第10回 伊勢・伊賀平氏の濫觴 第11回 伊勢平氏の雄飛と伊賀平氏 第12回 保元・平治の乱と伊勢・伊賀国 第13回 治承・寿永の内乱と伊勢・伊賀平氏の乱 第14回 鎌倉幕府の成立と三日平氏の乱 第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
【教科書】											
授業中にプリントを配布する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系15

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、天皇制とも密接に関わる年号制定のあり方に焦点をあて、年号の制定に不可欠な知識や時代認識の変容を検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、年号制定のあり方に焦点をあてながら、宮廷社会における知識の内実や時代認識の変遷について検討する。まずは天皇制と年号との関係性を整理し、年号を日本の古代国家の歴史の中に位置付ける。次いで、陣定としての年号定がどのように成立したかを考察し、年号の制定過程が定式化していく意義を明らかにする。最後に、年号定の中に登場する年号勅文や難陳といったものを取り上げ、年号の制定に不可欠な知識や時代認識の変遷を検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 年号と天皇制（第2回～第3回）											
2 陣定としての年号定の成立（第4回～第7回）											
3 年号勅文の典拠と文人貴族の知識（第8回～第10回）											
4 年号難陳にみる宮廷社会の時代認識（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系16

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、古代国家の政務のあり方に焦点をあてながら、平安時代における政務の変容と宮廷社会の様相との関係性について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、古代国家の政務のあり方に焦点をあてながら、平安時代における政務の変容と宮廷社会の様相との関係性について検討する。まずは政務を支えた官僚制について整理し、律令国家における政務の特質を確認する。次いで、「政」と「定」の二つの系統で構成される政務のあり方を素描し、それぞれがどのように変質していったのかを考察する。最後に、政務における法秩序と先例・故実との相互補完関係を検討し、それを踏まえて、平安時代における政治意志の決定方法を概観する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 政務と官僚制（第2回～第3回）											
2 「政」と「定」の変容（第4回～第7回）											
3 法秩序と先例・故実（第8回～第10回）											
4 撰関期における政治意志の決定方法（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系17

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学人間科学研究科 教授 藤目 ゆき			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の京都									
【授業の概要・目的】											
江戸時代は文字通り、「江戸」が政治、経済、文化の中心として栄えた時代ですが、京都は、天皇の住む都、各藩が呉服を購入するため藩邸をおいた産業都市、寺の本山が集まる宗教都市、学者たちが集まる学術都市、芸術活動や出版業が盛んな文化都市、観光客が多く集う観光都市として栄えていました。この授業では、江戸時代における京都の歴史を、丸竹夷の通り名歌、水戸黄門、生類憐れみ令、天皇陵、遊所祇園、さまざまなトピックをとりあげながらみていきます。											
【到達目標】											
講義を通じて、江戸時代の特色を把握すること、多角的に収集した史料を読解して時代を読み解いていく歴史学の手法を理解すること、また毎回の講義で紹介する史料のなかに広がる豊かな世界を知ることが講義の主たる目標とします。またインターネットや図書館や博物館で、史料を探す手法も身につけてください。専攻とする分野が異なる人、興味のあるテーマが異なる人も、本講義を自らの研究の刺激として、自らの研究に取り組んでください。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の内容について講義します。ただし講義の進捗状況等により、順序や講義回数を変更することがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス この授業の概要とレポートについて 2 京都通り名歌の歴史 3 生類憐れみの令と京都の捨て子 4 水戸黄門と京都のお公家さん 5 重要文化財「大日本史編纂記録」を分解する 6 江戸時代の武士と文化都市京都 7 うんちの歴史 8 朝廷官位と年齢詐称 9 天皇陵の管理と修復 10 蚕の社と西陣 11 京都で暮らす女性たち 12 祇園遊所と一生不通養子娘 13 祇園遊所と幕府の政策 14 祇園遊所で遊ぶ人々 15 幕末京都と新選組 											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の発言・コメント紙回答30% レポート70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学期末のレポートが、一定以上の水準のものになるように、各自、興味をもった内容について、図書館やネットで、学術書や論文、史料を読んで、準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の講義冒頭で前回の授業にだされたコメント用紙について20分ほどかけて回答を行う。面白い質問がでた場合、講義予定を変更して、その回答で一回分を費やす場合もある。毎回、振り返り20分、講義1時間、コメント記入10分を目安として授業を行う。なお質問のある方はこちらにお願いします(kaji.kosuke@kuas.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系18

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学文芸学部 准教授 人見 佐知子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		遊廓・性売買（買売春）の近現代史									
[授業の概要・目的]											
本講義では、一次史料を読み解きながら女性史やジェンダー史の視座から近代日本の性売買や遊廓・公娼制度の歴史を考えていく。性売買は社会構造の歴史的な性格と不可分なので、性売買の歴史を考えることは近代社会の歴史的な特質についての理解を深めることにもつながる。また、近代日本の公娼制度と深く関係する日本軍「慰安婦」問題や、現代の性売買をめぐる諸問題についても考えたい。											
[到達目標]											
近代日本の性売買の歴史を理解するとともに、近代社会の歴史的な特質について考察を深める。また、一次史料を読み解く方法や、女性史・ジェンダー史の射程についても理解を得る。さらに、歴史の理解をふまえて現代社会の諸問題を考察する視座を養う。											
[授業計画と内容]											
1～2 ガイダンス：用語の説明と近代日本の性売買研究の動向について 3～5 娼妓と近代日本の公娼制度：娼妓の手紙を読む 6～8 性売買の拡大とその背景：芸娼妓周旋業者の経営史料を読む 9～10 廃娼運動の展開と性売買の変容：貸座敷経営者の史料を読む 11～13 戦時下の性：日本軍「慰安婦」問題を中心に 14 戦後～現代へ 15 まとめ 受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性があります。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業中の小レポート（30点）と期末レポート（70点）により総合的に判断する。											
[教科書]											
使用しない レジュメプリントもしくはPDFファイルを配布予定											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に紹介する参考文献を適宜読み、予習・復習をおこなうこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系19

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国専制国家の形成									
【授業の概要・目的】											
<p>秦始皇帝の天下統一（221BC）から清朝宣統帝の退位（1912）までの2000年あまり、中国では、皇帝が官僚を用いて集権的に人民を支配する専制国家が持続した。中国専制国家は自らを「中華」とし周辺諸民族を「四夷」とみなす「中華帝国」であった。「中華帝国」のもとで培われた政治文化は21世紀の現代に至るまでその痕跡をとどめている。本講義では秦の天下統一に至る歴史的推移を概観しつつ、中国専制国家の特質を考える。</p>											
【到達目標】											
中国史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。											
第1回 「中華帝国」の推移											
第2回 「中華帝国」起源論としての先秦史											
第3回 龍山期・二里头文化：国家の形成											
第4回 夏王朝											
第5回 殷前期・中期											
第6回 殷後期											
第7回 西周前期：周王朝の建国											
第8回 西周中期・後期：周王朝の変容											
第9回 『春秋』											
第10回 『左伝』											
第11回 『繫年』											
第12回 東遷期											
第13回 春秋前期前半：鄭莊公の小覇											
第14回 春秋前期後半：齊桓公の覇権											
第15回 春秋中期：晋文公の覇者體制											
第16回 秦											
第17回 楚											
第18回 呉											
第19回 春秋後期：晋覇の動揺											
第20回 『史記』											
第21回 孔子											
第22回 『竹書紀年』											
第23回 戦国前期：魏文侯・魏武侯											
第24回 戦国中期：魏恵王											
第25回 孟子											
----- 系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

- 第26回 戦国後期：秦の独走
第27回 華夷思想
第28回 秦始皇帝の天下統一
第29回 前漢前期の秦史認識
第30回 「封建」と「郡縣」：伝統中国における専制国家批判

*フィードバック方法は授業中に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

講義資料は担当者が準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系20

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		史記研究序説									
[授業の概要・目的]											
<p>史書には二つの側面がある。第一は、史料としての側面であり、この場合は史書に保存された情報が問題となる。第二は、著作としての側面であり、これは史書そのものが問題となる。『史記』についても、この二つの側面に対応した研究がそれぞれ可能である。本講義では、『史記』の著作として側面に重点を置き、その編次を手掛かりに、『史記』の歴史認識について考えてみたい。</p>											
[到達目標]											
中国古代史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>以下の項目を逐次論ずる。</p> <p>第1回 序論 第2～第3回 本紀 第4～第5回 表 第6～第7回 書 第8～第9回 世家 第10～第11回 列伝 第12～第14回 太史公自序 第15回 結論</p> <p>* フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に別途指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系21

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		孔子とその時代									
[授業の概要・目的]											
孔子伝復元の試みには、今日に至るまで膨大な蓄積があるが、実のところ『史記』孔子世家の記述を恣意的に取捨選択するものであったに過ぎない。これらの研究は先秦時代の歴史の実態および『史記』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、春秋時代後期の歴史を概観し、『史記』孔子世家を解析することで、孔子伝復元の可能性を追求する。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回～第4回 前半生(551-505BC) 第5回 陽虎専権(505-501BC) 第6回～第7回 短期間の政治的成功(501-498BC) 第8回～第10回 諸国遍歴(497-484BC) 第11回～第13回 晩年(484-479BC) 第14回～第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系22

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		16世紀におけるカトリックの世界的展開									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、17世紀初頭にフランスのイエズス会士ピエール・ド・ジャリックが著した『東インドならびにポルトガル人が発見した他国に起きた記憶すべき出来事の歴史』を読む。彼自身は海外に布教に行ったことはないが、ポルトガル王の布教保護権下にあるアジア、アフリカ、そしてブラジルにおける同胞の活動を編集したのが本書である。本書は各地の布教報告をまとめた二次的な編纂物ではあるが、ポルトガル人とイエズス会の活動を俯瞰的に見るには恰好の材料である（ただし、もっとも布教に成功した日本はザビエルとの関連で言及されるだけである）。本書を概観することで、16世紀におけるキリスト教の世界布教をトータルに把握することを試みる。</p>											
【到達目標】											
<p>近世におけるカトリックの世界的展開について知ることができる。 近世世界の「半分」の概観が得られる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、導入 2、ポルトガル人のインド到達、ザビエルの到来 3、ザビエル、さらに東へ向かう 4、インド西岸 5、インド東岸、東南アジア 6、アフリカ 7、ブラジル 8、ホルムズ 9、ムガル 10、中国 以上が16世紀、以下は17世紀初頭 11、インド 12、アフリカ、ブラジル 13、インド 14、東南アジア、中国 15、フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系23

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		1 7世紀オランダにおける世界認識									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、17世紀に世界に打って出たオランダ人が、異世界をどのように認識し、表象したかを、地図や地誌に即して読み解く。彼らがイエズス会などの既存の知識と自ら獲得した知識をいかに編集し、それを主にオランダ語で公刊して公衆に届けたのかを見る。この世界認識はタイムラグにおいて、江戸日本にももたらされたものである。</p>											
【到達目標】											
<p>1, 近世の西欧人の世界認識を知ることができる。 2, 出版と知の関係について考察を深めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1, 導入 2, エルゼビア社のレス・プブリカ・シリーズ 3, ブラウの地図 4, ヨハネス・デ・ラート『新世界』 5, ラートとグロティウスのアメリカ人起源論争 6, オルフエルト・ダッペルの『アフリカ』 7, ダッペル『シナ』 8, ダッペル『アジア』 9, ダッペル『シリア』 10, ダッペル『メソポタミア』 11, コルネリウス・ハザルト『世界教会史』 12, アルヌルドゥス・モンタヌス『日本』 13, モンタヌス『アメリカ』 14, 出版業者ヤコブ・ファン・マース 15, フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートで評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系24

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学研究科 准教授 箱田 恵子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中国と仲裁裁判制度 米国の影響を中心に									
[授業の概要・目的]											
<p>この講義では、清末中国における近代国際関係の受容に関し、特に仲裁裁判制度の受容について解説する。いくつかの外交交渉を取り上げ、清朝の国際法や仲裁裁判制度に対する認識・態度を講義する。その際、仲裁裁判の推進に積極的であり、東アジアでの独自の使命を自任していた米国が果たした役割や影響について検討し、近代の米中関係を新たな視点から論じる。米国の影響のもと清末中国で形成された独特な仲裁裁判観は、近年の中国の国際秩序に対する姿勢の背景を理解するてがかりとなる。また、日露戦争後の満洲における日本の勢力拡大に対し清朝は仲裁裁判を利用して抵抗を試みるが、それを報じて国際世論を喚起したタイムズ通信員モリソンの言動について、当時の米国の新聞・雑誌にみえる中国論との関係を検討する。それにより、20世紀初めの中国の変化とそれが米国においていかに評価され、東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのかを講義する。</p>											
[到達目標]											
<p>受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解する。さらに近代において世界的に注目されていた仲裁裁判制度が、清朝の外交や東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのか、米国の果たした役割や影響を中心に学び、特殊な関係と呼ばれる近代の米中関係が、中国における近代国際関係の受容や近代外交の形成に与えた影響を理解する。それと同時に、中国における変化を米国のメディアがいかに評価して報じたのか、またその報道が中国をめぐる国際関係にいかなる影響を与えたのかについても理解する。以上により、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から考察することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1.近代における仲裁裁判制度の発展 2.東アジアの伝統的国際秩序 3.清朝の対外体制の変化 4.中国における仲裁裁判制度の紹介と米国の果たした役割 5.華工虐待問題をめぐる対スペイン交渉と米国の自由移民原則の影響 6.台湾出兵と清朝の「公評」提起 7.琉球処分と仲裁裁判：グラント元大統領の調停と日清の対応 8.ベトナムをめぐる清仏紛争と仲裁裁判：駐清米国公使ヤングの役割 9.清末中国の新聞雑誌にみる仲裁裁判観 10.20世紀初めにおける中国をめぐる国際関係の変化：米国の門戸開放宣言 11.日露戦争後の中国の変化 12.第二辰丸事件と清朝による仲裁裁判提起：満洲問題への波及 13.モリソンの活動とモリソンパンフレット：米国の雑誌記事の分析を中心に 14.モリソンの活動と中国への影響 											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

15.フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系25

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学国際関係学部 須藤 瑞代 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジェンダーからみる近代中国史									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、19世紀末から20世紀前半にかけての中国におけるジェンダー秩序の変容について分析する。具体的には以下の三つに重点をおいて講義を行う。</p> <p>(1) 思想：国家形成と密接に関連して論じられた「女権」や、前近代から続く節婦烈女の褒揚に関する議論を分析し、ジェンダー秩序の変容がどのように展開したのかを考察する。</p> <p>(2) メディア：『婦女雑誌』『上海婦女』など複数の女性向け雑誌をとりあげ、各雑誌の特徴をふまえて、どのような議論が展開され、中国におけるジェンダー秩序にいかなる影響を与えたのかを分析する。</p> <p>(3) 日中女性交流：日本人女性記者竹中繁は1926～27年の半年間にわたり中国の各都市を旅行し、女性たちと交流した。その中には、宋慶齡など著名な女性から、女性教員や女性記者などほぼ無名の人々も含まれる。竹中繁の視線を通して当時の中国社会を考察し、日中関係史の中で女性間のつながりがどのような意味を持つものであったのか、双方の社会のジェンダー秩序の変容とどのようにかかわっていったのかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>近代における中国社会の変容について、ジェンダーに着目して分析できるようになる。</p> <p>近代中国女性史に関する基本的知識を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 「女権」をめぐる議論</p> <p>第3回 「女権」をめぐる議論</p> <p>第4回 女子学生の登場</p> <p>第5回 「節婦烈女」の褒揚</p> <p>第6回 『婦女雑誌』にみる日本女性像</p> <p>第7回 日本人女性記者竹中繁の半生</p> <p>第8回 竹中繁のみた中国(1926～1927年)</p> <p>第9回 竹中繁のみた中国(1926～1927年)</p> <p>第10回 竹中繁のみた中国(1926～1927年)</p> <p>第11回 竹中繁による日中双方向レポート</p> <p>第12回 竹中繁の中国再訪・市川房枝とともに(1940年)</p> <p>第13回 『女声』にみる日本女性の不在</p> <p>第14回 『上海婦女』にみる「つながる」女性たち</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

須藤瑞代『中国「女権」概念の変容 清末民初の人権とジェンダー』（研文出版、2007年）
村田雄二郎編『「婦女雑誌」からみる近代中国女性』（研文出版、2005年）
山崎真紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本
一九二六#12316二七年の中国旅行日記を中心に』（研文出版、2018年）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員への連絡は電子メール（mizuyos@cc.kyoto-su.ac.jp）で行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系26

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮末期政治外交史の研究(19世紀)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮末期(19世紀)における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界との関連において朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 純祖朝の政局 第2講 辛酉の教難 第3講 殉教者の群像 第4講 僻派の失脚 第5講 洪景来の乱 第6講 洪景来の乱・続き 第7講 在地社会の構図 第8講 イギリス船の来航 第9講 ソウルの食糧暴動 第10講 王世子の代理聴政 第11講 己亥の教難 第12講 己亥の教難・続き 第13講 アヘン戦争の風聞 第14講 フランス船の来航 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。

[教科書]

使用しない
講読史料、レジュメ等のプリントは事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを配布する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社)ISBN:9784634462137
姜在彦『朝鮮半島史』(角川ソフィア文庫)ISBN:9784044006419
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房)ISBN:9784827331110
矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店)ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系27

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮末期政治外交史の研究(19世紀)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮末期(19世紀)における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界との関連において朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 辛亥禮論 第2講 党争の再燃 第3講 三南の民乱 第4講 三政の紊亂 第5講 大院君の執政 第6講 丙寅の教難 第7講 丙寅洋擾 第8講 辛未洋擾 第9講 朝鮮の開國 第10講 壬午軍乱 第11講 日清戦争 第12講 大韓帝国 第13講 日露戦争 第14講 韓国併合 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを配布する。

[参考書等]

(参考書)

姜在彦 『朝鮮半島史』 (角川ソフィア文庫) ISBN:9784044006419

森万佑子 『韓国併合：大韓帝国の成立から崩壊まで』 (中公新書) ISBN:9784121027122

李成市ほか 『朝鮮史1』 (山川出版社) ISBN:9784634462137

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系28

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
<p>マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン（女真）人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。</p>												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ</p>												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点（授業での発表など）60点、期末レポート40点												
[教科書]												
<p>使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。</p>												
[参考書等]												
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>												
[授業外学修（予習・復習）等]												
授業前の予習を必須とする。												
（その他（オフィスアワー等））												
<p>質問などがある場合には、Email (chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>												

歴史基礎文化学系29

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史基礎文化学系30

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国簡牘史料の発見史 3. 楚簡の概観 4. 秦簡の概観 5. 墓葬出土漢簡の概観 6. 辺境出土漢簡の概観 											
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（50点）と平常点（授業内での質問・発言、小テスト 50点）を総合して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系31

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		法廷から眺めた中国古代									
【授業の概要・目的】											
近年公表されている中国古代の出土文字史料のうち、裁判に関連する文献（睡虎地秦簡「封診式」、岳麓書院所蔵簡や張家山漢簡の裁判記録）を活用し、統一秦の頃から漢代初期に至るまでの、政治や社会の状況について講義する。まず、裁判が行われる場やその手続きについて整理し、制度の特徴や限界を明らかにする。そのうえで秦～漢初の政治状況、たとえば統一に伴う混乱や、皇帝と諸侯王との関係などについて、いくつかトピックを取りあげて講義する。さらに家族関係や地域社会の様子など、当時の社会についても紹介する。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の進め方 (2) 史料について 2. 法廷の風景 <ol style="list-style-type: none"> (1) 裁きの場 (2) 裁きの進行 (3) 冤罪の苦しみ 3. 秦～漢初の諸相 <ol style="list-style-type: none"> (1) 秦と楚 (2) 占領民の反乱 (3) 逃亡者たち 4. 家族と社会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 親子関係 (2) 夫婦関係 (3) 里の風景 <p>ガイダンスの後、各単元を1～2回に分けて講義する。</p>											
【履修要件】											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(50点)に平常点(50点 授業への参加態度、特に授業内での質問・発言)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系32

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス（1回） 2．石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4．石刻史料積読（7～9回） 5．まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

積読史料は、プリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

積読する史料を指定してからは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系33

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
[授業の概要・目的]											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
[到達目標]											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス（1回） 2．石刻史料精読（13回） 3．まとめ（1回） 精読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。											
[履修要件]											
前期からつづけて履修することが望ましい。実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
[教科書]											
精読史料は、プリントなどを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
精読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系34

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系35

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系36

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		崇禎帝と大臣の召対を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>明朝最後の皇帝である崇禎帝の初年は、それまでの苛烈な党争が終焉を告げたものの、政局が安定したわけではなく、満洲族の攻勢、李自成の反乱によって内憂外患の状況にあった。</p> <p>本授業では、明末の党争に関する重要な史料とされている金日升の『頌天臚筆』巻3・4に収録される「召対」（宮中における皇帝と大臣の問答の記録）を通して、崇禎初年の政治情勢と皇帝のそれに対する姿勢を読み取る。</p>											
[到達目標]											
<p>1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。</p> <p>2、明末の政治情勢を知ることができる。</p> <p>3、皇帝と大臣の政治空間を把握することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。</p> <p>第1回 史料の性質について説明</p> <p>第2～8回 巻3（崇禎元年六月二十七日～十月二日）</p> <p>第9～14回 巻4（崇禎元年十月十一日～二年正月二十八日）</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
テキストはこちらから配布する。											
[参考書等]											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系37

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治七年(1650)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治年間前半の政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。</p> <p>2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。</p> <p>討賊、招撫、重罪犯、漕運、広東・湖広・陝西情勢、偽王、虎害、残酷な県令、奸細、致仕願い、黄河水害など。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 東洋史学(演習II) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習II) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系38

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『資治通鑑』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>今年北齊王朝の興亡を主として取り上げる。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介 2～5回 高歡の死(544～547) 6～10回 北齊王朝の成立(548～550) 11～16回 北周王朝の成立(551～556) 17～20回 高演の専権、即位(557～560) 21～26回 和士開の専権(561～571) 27～29回 北齊の末年(572～577) 30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリントしたものを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(A3用紙1枚分)ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系39

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
Ricardo Padrón, The Indies of the Setting Sun: How Early Modern Spain Mapped the Far East as the Transpacific Westを読む。近世における環太平洋世界は、マニラ・アカプルコ間のガレオン交易の重要性はよく知られているものの、環大西洋世界に比べると、「世界史の裏街道」的な扱いを受けてきた。「スペインの湖」ともいわれている近世の太平洋世界の東岸(アメリカ)と西岸(アジア)の研究は別々に行われてきた。しかし、近年、スペイン人の「西進」運動が注目を集めつつあり、本書もそうした潮流に棹差すものである。副題が示すように、アジアを極東としてではなく、スペインの西進運動の極ととらえ、スペイン人の「西に対する想像力」を論じる本書を読むことで、東進するポルトガル人とは、別の想像力のあり様が浮上してくるだろう。											
【到達目標】											
1, 正確な英文和訳の力を身に着けることができる。 2, スペイン人の西進の世界史的意味を考えることができる。											
【授業計画と内容】											
1回 導入 2-4回 第1章 カーテンの背後の地図 5-8回 第2章 南海の夢 9-11回 第3章 太平洋の悪夢 12-14回 第4章 難破した野望 15-17回 第5章 太平洋の征服 18-21回 第6章 シナの位置 22-24回 第7章 日没する国 25-28回 第8章 紙の帝国の不安 29回 結論 30回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を日本語訳して提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系40

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		吉本 道雅 中砂 明德	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		東洋史学(実習)									
[授業の概要・目的]											
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。											
[到達目標]											
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。											
[授業計画と内容]											
第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点と「小論文」の発表を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひごろから関心を持っておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は各教員の研究室で行う											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系41

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項（たとえばイスラーム教の基本的な教義など）の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world. (2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観（2回） イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識（2回） コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観（12回） イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法（3回） イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門（3回） 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の類型など ・ワクフ（2回） ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達（2回） 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフィズム（2回） 「スーフィズム（イスラーム神秘主義）」の概要、歴史研究におけるスーフィズムなど ・イスラーム法廷（2回） 											
----- 系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

- Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)
- Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)
- Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)
- Islamic law (3 weeks)
- How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)
- Waqf (pious donation) (2 weeks)
- The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)
- Sufism in history (2 weeks)
- Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジユメを教科書とする。尚、レジユメは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム言語哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。ここ数年は、そうした言語哲学を集中的に扱ってきた。古典期バスラ系カラーム（神学）、ザーヒル主義の極端なタイプであるイブン・ハズムを論じてきたのは、そうした流れにおいてだ（言語哲学的色彩が強いイスラーム思想家として、下に挙げるファーラービーや、ハンバル派法学者イブン・タイミーヤ、更には、後期アシュアリー派神学も視野に入る）。昨年度講義では、ロジェ・アルナルデス（Roger Arnaldez）がイブン・ハズム（西暦1064年歿）を論じた研究書（Grammaire et theologie chez Ibn Hazm de Cordoue, Paris, 1956）並びにジャック・ランガド（Jacques Langhade）の『クルアーンから哲学へ』（Du coran a la philosophie）を採り上げた。後者は、哲学者ファーラービー（abu Nasr al-Farabi, 西暦950年歿）の言語思想に焦点を合わせていくのだが、副題（La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi）が示すとおり、ランガドは、西暦十世紀までに己れの言語であるアラビア語を省察してきたアラビア語＝イスラーム文化の言語思想を網羅的に調べ、ファーラービーが如何にその言語思想の歴史を己れの哲学言語形成に組み込んだかを丹念に追う。その研究は、ファーラービーの哲学的思惟に新たな光を当てるだけでなく、元来、外来思想とのみ目されてきた哲学（ファルサファ）の持つ重要な、だがイスラーム思想史記述からはすっぽりと抜け落ちる局面を浮彫にする。</p> <p>残念なことに時間の都合上、昨年度は『クルアーンから哲学へ』の内容をごく概説的に提示するに留まった。本講義では、ランガドの研究書の詳細な内容の検討、並びにランガドの示した言語哲学像から披ける展望の紹介を行う。詳細は、授業計画をご覧ください。ランガド『クルアーンから哲学へ』の研究対象は、クルアーンやハディース（ムハンマドの言行録）の意味論から、アラビア文学、いわゆる宗教諸学を經由して、ファーラービー（西暦950年歿）の言語論に至る。その意味論の探究は、イスラーム文化が言語を如何に認識したかに焦点が当てられる（その分析に意味論が使われる）。現在、イスラーム哲学（ファルサファ）研究は、ほぼ同時代のイスラーム思想（コンテキスト）を無視する形で行われるが、ランガドの研究書は、その状況を打破する格好の素材であろう。なお、アルナルデスの前出研究書は、イスラーム思想研究に重要な示唆を与える点が多々あった。取り分けて日本人にとって重要なのは、井筒俊彦の英文著作群に意味論という方法論を与えるものであったことだ。アルナルデスでは、まだ萌芽的であった意味論が、ランガドでは、徹頭徹尾使い尽くすし方で扱われているのが興味深い（ランガドは、ほぼアルナルデスの弟子と言ってよい）。井筒の意味論が如何なるものであったかは、アルナルデス、ランガドのフランス語圏イスラーム思想研究での意味論研究の深まりと比較することなくして充分評価できないのではなからうか。</p> <p>上に展望と言った。それは、後期アシュアリー派神学に係わる。古典期バスラ系カラームと違って後期アシュアリー派神学は、哲学（ファルサファ）を經由する。そうした哲学への関与は、如何なるし方で為されたのか。その一端が記されるのがアルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー　クルアーン注釈者、並びに哲学者』（Roger Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, J. Vran, 2002）である。アシュアリー学団の神学の転換点にあるファフルッディーン・アッ＝ラーズィー（西暦一二〇九年歿）の神学は、古典期バスラ系カラームの意味論的構成とも、ファーラービーを筆頭とする哲学／ファルサファの意味論的構成とも異なる</p>											
西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

る構成を持つ。だが、これもまた時間の都合上、概要を説明するに留まらざるをえない。

なお二つの研究書（Langhad, Du Coran a la philosophieとArnaldes, Fakhr al-Din al-Razi）は仏文であるが、事前に和訳と原文テキストを配布する。

[到達目標]

本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とするのは、限られた思想家だけでない。或る意味で既にクルアーンにおいてそうした傾向が見えるし、主要な思想家たちはほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であるのを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来イスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。

取り分けて本講義では、ファーラービーにおける論理学と文法学の連関が詳しく採り挙げられ、イスラーム思想において論理学／文法学の問題がただならぬ問題であることを考察できる。更に、論理学と文法学（伝統的な言語思想）がファフルッディーン・アッ＝ラーズィーにおいて更なる展開を見せることと併せて、イスラーム言語哲学が動的に展開するのを観ることができる。

[授業計画と内容]

基本的にJ・ランガド『クルアーンから哲学へ』の章立て（と部分的にR・アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』の章立て）に従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来る限り眼を通していただきたい。

- | | | |
|------|-------------------------------|---|
| 第1回 | 概説 | イスラーム哲学（ファルサファ）とギリシア文献の翻訳と伝統的アラビア語言語学の意味論的配置とファーラービーの位置づけ |
| 第2回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(1) | クルアーンとハディースの言語観／言語の意味論 |
| 第3回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(2) | クルアーンとハディースの言語観／言語の意味論 |
| 第4回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(3) | アラビア語散文学における言語観／言語の意味論 |
| 第5回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(4) | 法学・神学・神秘主義における言語観／言語の意味論 |
| 第6回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(5) | 文法学・辞書学における言語観／言語の意味論 |
| 第7回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(6) | ファーラービーの言語理論(1)諸言語の形成と諸学における術語形成 |
| 第8回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(7) | ファーラービーの言語理論(2)哲学言語の形成 |
| 第9回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(8) | ファーラービーの言語実践(1)哲学語彙の検討 |
| 第10回 | ランガド『クルアーンから哲学へ』(9) | ファーラービーの言語実践(2)哲学用語と哲学概念の分析 |
| 第11回 | 神学（カラム）と哲学（ファルサファ） | 思想言語をめぐる意味論的闘争の概観 |
| 第12回 | アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(1) | イスラーム思想におけるクルアーン由来の言語思想／言語哲学とファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの思想 |
| 第13回 | アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(2) | 西暦十二世紀までの政治宗教的状況 |
| 第14回 | アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(3) | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの生涯 |
| 第15回 | アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』(4) | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが触れた文化遺産 |

西南アジア史学(特殊講義)(3)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用テキストは、J. Langhade, Du Coran a philosophie: La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi, Damas: L'Institut Francais d'Etudes Arabes de Damas, 1994とR. Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, Paris: V. Vrin, 2002.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系43

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものと見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソング(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系44

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝の成立とオスマン朝の「古典期」統治体制の成立と変容 Reserch of the Ottoman Empire I: Its Origin and Ruling System in the "Classical Period"									
【授業の概要・目的】											
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に15 - 17世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 15-17th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.</p>											
【到達目標】											
<p>前近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the pre-modern Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の成立および「古典期」統治体制の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the Ottoman Empire and its administration system weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials week 15: Feedback and discussion</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

[教科書]

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記(ラテン文字転写含)等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系45

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)

小松久男『革命の中央アジア』(東京大学出版会)ISBN:4-13-025027-2(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol. 2, No. 1(1999)』(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会)ISBN:4-13-034185-5(ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店)ISBN:9784750346373(ウズベキスタン地域研究入門編)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系46

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授 野田 仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中央アジアの東と西：境界をめぐる歴史と史料									
【授業の概要・目的】											
中央アジアの歴史のなかで、たとえば「トルキスタン」というよく知られた地理的な名称を取り上げて、その境界は明確ではなく、歴史史料における言及も多様であった。本講義では、中央アジア史上の境界に着目し、前近代のさまざまな表象を検討する。とりわけ、現在は中国新疆ウイグル自治区となっている東側と、ロシア帝国・ソ連領であった西側との間の境界・国境に焦点を当て、それが次第に近代的な国境となる過程をたどりたい。したがって、本講義が重点を置くのは、18世紀から20世紀初頭にかけての時期である。											
【到達目標】											
中央アジアの歴史の流れを、その周辺の大国との関係の推移と共に理解し、説明できるようになる。 近代的な国境の成立過程を、中央アジアの事例から理解して、説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて順序などを変更する可能性がある。											
第1回：イントロダクション（中央アジアの地理と境界） 第2回：地図からわかること 第3回：東と西のつながり 第4回：中央アジアの南北の違い、ポスト・モンゴル時代 第5回：ジュンガルの時代 第6回：露清関係とカザフの外交1 第7回：露清関係とカザフの外交2 第8回：清朝の東トルキスタン統治 第9回：コーカンド・ハン国の東方関係 第10回：露清間の境界画定と条約 第11回：グレートゲームとパミールの境界 第12回：探検・調査の時代 第13回：辛亥革命とロシア革命による人の移動 第14回：国境を越える人・モノ・情報の動き 第15回：まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

野田仁 『露清帝国とカザフ=ハン国』(東京大学出版会, 2011年) ISBN: 9784130261395

小沼孝博 『清と中央アジア草原: 遊牧民の世界から帝国の辺境へ』(東京大学出版会, 2014年)

ISBN:9784130261494

吉田金一 『近代露清関係史』(近藤出版社, 1974年)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の中で紹介する参考文献を参照し、必要に応じて関連する論文も探し、参照することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

授業中の質問、メールによる質問を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系47

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝の転換と近代化 Reserch of the Ottoman Empire II: Its Transformation and Modernization									
【授業の概要・目的】											
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に18 - 20世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 18-20th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.</p>											
【到達目標】											
<p>近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。 また、史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができるようになる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) understand the feature of the ruling systems of the modern Ottoman Empire, as well as their origin and transformation.</p> <p>(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の近代化の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じた近代オスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the modern Ottoman Empire weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials Week 15: Feedback and Discussion</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系48

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習 I) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説（詳細は「授業計画と内容」を参照）を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語・ペルシア語・トルコ語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Islamic world history. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic, Persian and Turkish technical terms into English.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamic world.</p> <p>(2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field.</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、講義の際に事前に適宜指定する。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) 受講生と相談のうえ講読テキストを決定する Deciding the text we will read in this course by consulting with students.</p> <p>Weeks 2-29: 講読 Reading of the assigned text</p> <p>Week 30: (これまで講読した内容についての議論) Having discussion on the key issues presented by the authors.</p>											
----- 西南アジア史学(演習 I)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

講読史料やその他必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System.

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系49

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic									
【授業の概要・目的】											
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。</p> <p>第2回~第14回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの用途について述べた箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、イクターについて述べた箇所の講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) dealing with the topics about how to spend kharaj</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

Week 15: Feedback and Discussion

Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) dealing with iqta and soyurghal

Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系50

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p> <p>なお、授業はZoomミーティングを利用した遠隔リアルタイム型で行う。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系51

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>アラビア語(フスハー)文法を習得していること。 前期から続けて受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。 評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系52

科目ナンバリング		U-LET25 36850 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
【授業の概要・目的】											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語（オスマン語）文献の講読をおこなう。											
【到達目標】											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞（1） 第5回 格接尾辞（2）、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞（分詞、連体形） 第13回 副動詞ほか *以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系53

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読 Reading Persian historical text									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、ティムールによるシリア攻撃（1400-01年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course record the events which occurred during Timur's campaign toward Syria (1400-01). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>											
【到達目標】											
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、1400年から翌年にかけてのシリア攻撃に関する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning Timur's campaign toward Syria in 1400-01. Week 15: Feedback and Discussion</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>											
----- 西南アジア史学(講読) (2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読) (2)

[成績評価の方法・観点]

講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系54

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ペルシア語資料の講読									
[授業の概要・目的]											
13世紀以前に書かれたペルシア語資料を題材に、古典ペルシア語文献の読解方法、分析、活用方法を学ぶことを目的とする。											
[到達目標]											
11世紀、ガズナ朝の書記であったアブー・アルファズル・バイハキーが著した年代記『バイハキーの歴史』を題材に、13世紀以前の古典ペルシア語文献の持つ特徴や、アラビア語文献との関係、あるいはイラン文化とイスラーム文化の接合の有り様について理解することを目的とする。基本的には担当者が和訳と注を作成し、それを出席者全員で共有しつつ、会読を進める。											
[授業計画と内容]											
第一回～二回 『バイハキーの歴史』の背景についての解説 第三回～第十五回 ペルシア語資料の講読（訳注の作成）											
[履修要件]											
近世ペルシア語文法を学んでいること											
[成績評価の方法・観点]											
訳注の準備や発表などを踏まえた平常点80%。期末のレポート20%											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
上記のように出席者に和訳と註釈の準備を求めるので、予習は必須である。準備なしの出席は認めない。また、自らの担当回を無断で欠席した場合は単位認定しない。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系55

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 後期授業の進め方について</p> <p>第2回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第3-5回 日本語論文の内容紹介発表</p> <p>第6回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第7-9回 英語論文の内容紹介発表</p> <p>第10回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第11-13回 英語論文の内容紹介発表</p> <p>第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester</p> <p>Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester</p> <p>Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese</p> <p>Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester</p> <p>Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English</p> <p>Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the</p>											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系56

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習									
【授業の概要・目的】											
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明</p> <p>第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明</p> <p>第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践</p> <p>第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について</p> <p>第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系57

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）

前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）

後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。

その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系58

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 岩本 佳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オスマン朝の遊牧民と国家 Reserch of the nomadic people in the Ottoman Empire									
【授業の概要・目的】											
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」に焦点をあてて、オスマン朝における遊牧民と国家の関係を、近年の新たな研究動向を参考にしつつ、オスマン語（アラビア文字表記トルコ語）で書かれた行財政文書など実際の史料を取り上げて考察する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines nomadic people in the Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.</p>											
【到達目標】											
<p>オスマン朝の遊牧民支配のシステムの持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <p>第1週：前期ガイダンス</p> <p>第2～第4週：オスマン朝およびオスマン朝の遊牧民統治システムの概説</p> <p>第5～第6週：研究史料の解説</p> <p>第7～14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第15週：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16週：後期ガイダンス</p> <p>第17～第20週：研究史料の解説</p> <p>第21～29週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第30週：まとめ</p> <p>Spring Term</p> <p>week 1: Guidance</p> <p>weeks 2-4: Outline of the nomadic people in the pre-modern Ottoman Empire</p> <p>weeks 5-6: Introducing historical materials.</p> <p>weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials</p> <p>week 15: Feedback and discussion</p> <p>Autumn Term</p>											
----- 西南アジア史学(演習II) (2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II) (2)

week 16: Guidance

weeks 17- 20 : Outline of the nomadic people in the modern Ottoman Empire

weeks 21-29: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials

week 30: Feedback and discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

適宜、研究書、論文、オスマン語行財政文書（ラテン文字転写含）を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系59

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>ヨーロッパ世界では、歴史をどのように認識してきたのであろうか。また、歴史を研究する視角や方法は、時代の変化にともなって、どのように変化してきたのであろうか。この講義では、古代から現代までのヨーロッパにおける歴史認識の歴史を、各時代の全般的な状況をふまえながら概観し、それぞれの時代の歴史叙述の特徴や、歴史研究の方法をめぐる議論を紹介する。本講義をつうじて、古代から現代にいたるヨーロッパ史の流れを把握するとともに、西洋世界における歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について考える素材を提供することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴について理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
以下のようなテーマをとりあげる予定である。											
第I部 イン트로ダクション											
第1回 ふたつの問い 序説の序説											
第2回 図像からみた「ヨーロッパ」のイメージの変遷											
第II部 近代歴史学の成立から現在まで											
第3回 事実は一体どうであったのか レオポルト・フォン・ランケの歴史学											
第4回 ランケの日本的領有(その1) 日本における「西洋史学」の成立											
第5回 ランケの日本的領有(その2) 京都学派とランケ史学											
第6回 歴史のなかに「繰り返すもの」をみる ブルクハルトの歴史観											
第7回 病としての歴史的教養 ニーチェの歴史学批判とブルクハルト											
第8回 人間がつくる歴史、歴史に縛られる人間 マルクスの歴史像											
第9回 脱魔術化する世界 マックス・ウェーバーにとっての西洋近代											
第10回 日本におけるマックス・ウェーバー受容と「西洋史学」											
第11回 人食い鬼としての歴史家 アナール学派の歴史学(その1)											
第12回 歴史的時間の多層性 アナール学派の歴史学(その2)											
第13回 時系列史から表象の歴史学へ アナール学派の歴史学(その3)											
第14回 多元的世界から資本主義世界経済へ 世界システム論の視座											
第15回 17世紀危機論争と日本の「西洋史学」											
----- 系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

- 第16回 ポスト冷戦と歴史研究 ポーランドの場合
第17回 国境を越えて歴史認識を議論するには ポーランド・ドイツ「記憶の場」
第18回 感情に歴史はあるか 歴史研究のフロンティア
- 第Ⅲ部 近代歴史学以前のヒストリオグラフィ
- 第19回 自然哲学から歴史叙述へ ヘロドトスの歴史叙述
第20回 可能なかぎり厳密に トウキュディデスの歴史叙述(その1)
第21回 ファロクラシー? トウキュディデスの歴史叙述(その2)
第22回 ローマからみた「世界史」 ポリュビオスの歴史観
第23回 帝国の暗鬱 タキトゥスの描く帝政ローマ
第24回 救済史としての歴史 中世ヨーロッパの歴史叙述(その1)
第25回 過ぎし年月の物語 中世ヨーロッパの歴史叙述(その2)
第26回 普遍史の危機(その1) 人文主義と歴史叙述
第27回 普遍史の危機(その2) 啓蒙期の歴史観
第28回 ふたつの歴史哲学(その1) ヴォルテールの場合
第29回 ふたつの歴史哲学(その2) ヘーゲルの場合
第30回 授業の内容をふまえた総論

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期と後期に各1回、レポートの提出を求める。成績の評価は提出されたレポートにもとづいて行う。

授業でとりあげた文献のなかから各受講生が1ないし複数の文献を選択し、その内容について論述することをレポート課題の内容とする。レポートの評価にあたっては、文献の読解の正確さ、ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴にかんする理解度、文章表現や論理構成の適切さなどを総合的に評価する。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【参考書等】

(参考書)

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』(京都大学学術出版会、2010年) ISBN:978-4-87698-948-5 (京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。)

金澤周作監修 『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系60

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		公立大学法人大阪公立大学大学院文学研究科 草生 久嗣 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世における異端問題とビザンツ帝国									
[授業の概要・目的]											
<p>西洋中世史上、11世紀より各地で展開した「中世異端」問題は、様々な論点を開示しつつ20世紀における西欧中世精神史を代表するトピックとなった。この成果に対し、正教会圏および東地中海世界での異端問題の諸相を取り込むことは、「中世異端」問題に新たな展望をひらき、西欧ローマ・カトリック世界における中世史理解を発展的に問い直す機会になると考えられる。</p> <p>13世紀にアルビジョワ十字軍および異端審問制度に帰結した「民衆異端 popular heresy (Moore)」および「宗教運動 Religioese Bewegungen (Grundmann)」現象について、その淵源あるいは先駆として位置付けられがちなビザンツ帝国史上の諸異端、とくに「中世のマニ教 (Runciman, Stoyanov)」の見直しに取り組む。その際、同時代において中世異端概念自体が構築されていく様に着目する「異端を見る眼 (異端学)」の分析を踏まえる。</p>											
[到達目標]											
<p>具体的な事例とその学術的な評価の諸相について学び、従来、中世キリスト教世界が生み出したとされる「正統対異端」という表現について、ビザンツ・東地中海世界の心性を踏まえた解釈が可能になる。これまで一般的に考えられてきた「多数派對少数派」・「主流對傍流」といった二項對立的な枠組みに収まりえない多様性を伴っていたことを理解し、この歴史的知見の見直しが、現代に生きる我々の文化・精神・社会理解に役立たせるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入：12世紀宗教改革における「正統と異端」</p> <p>第2回 「異端者の群れ」 中世異端史論 1</p> <p>第3回 東地中海の異端概念 中世異端史論 2</p> <p>第4回 コンスタンティノーブルのボゴミール派</p> <p>第5回 バシレイオス事件の背景</p> <p>第6回 「パノプリア」の12世紀 ビザンツ異端学 1</p> <p>第7回 「異端カタログ」から「異端史」へ ビザンツ異端学 2</p> <p>第8回 イスラーム教派学 (heresiology) ビザンツ異端学 3</p> <p>第9回 コンスタンティノーブルとローマ</p> <p>第10回 異端に対する迫害と戦争</p> <p>第11回 宗教的寛容の所在</p> <p>第12回 新マニ教を見る眼</p> <p>第13回 神学論争・イコノクラスムを見る眼</p> <p>第14回 ムスリムを見る眼</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

第15回 総括：我々の「異端を見る眼」

授業計画は一部変更になる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート（100点）。詳細は授業中に説明する。
なお、成績評価は、到達目標に照らして行なう。

【教科書】

使用しない
資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）

ヘルベルト・グルントマン（今野國雄訳）『中世異端史』（創文社、1974年）ISBN:4423493225（参照必要箇所は授業中に抜粋配布）

小田内隆『異端者たちのヨーロッパ』（NHK出版、2010年）ISBN:4140911654

ユーリー・ストヤノフ（三浦清美訳）『ヨーロッパ異端の源流 カタリ派とボゴミール派』（平凡社、2001年）ISBN:4582707130（参照必要箇所は授業中に抜粋配布）

渡邊昌美『異端カタリ派の研究 中世南フランスの歴史と信仰』（岩波書店、1989年）ISBN:4000001299（同上）

その他、授業中に随時紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：関連文献を読み、授業内容へのイメージを膨らませておく。

復習：授業内容を批判的に復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーにおける、対面での面談は木曜の授業後から3限までの時間帯に行う（日時や場所についてメールによるアポイントメント必要）。オンラインによる面談については、授業内で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系61

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部 教授 阿部 俊大			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「レコンキスタ」の展開とその歴史的影響ー中世盛期を中心にー									
【授業の概要・目的】											
<p>西欧世界は、異文化との多様な接触の中で自己を形成してきた。本講義では、中世西欧が最も長期間に渡り恒常的な異文化接触を経験した場である中世イベリア半島（スペイン・ポルトガル）を題材に、特に最も激しい形態で異文化接触が展開された中世盛期を中心に、多様な異文化接触の実情と、その政治・経済・社会・文化への影響を分析する。中世イベリアのキリスト教諸国の中で最も人口に膾炙している、カスティーリャ＝レオン王国の事例を中心に取り上げ、ポルトガルやピレネー諸国の事例は適宜、比較対象として取り上げる。</p> <p>中世西欧の国制とその発展過程について、日本では英仏独の事例がよく知られているが、他の地域の事例についての情報は乏しく、体系化もされていない。イベリア半島の事例を他の西欧諸国と比較しつつ学ぶことで、より複合的・多角的な視点から、中世西欧の国家や社会についての理解を深めることも可能となるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>イベリア半島と他の西欧諸国を対照しつつ、中世西欧の国制の発展、および異文化接触とその影響についての認識と理解を深めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初期中世のイスラーム＝スペイン【第1～2週】</p> <p>(1) イスラームによる征服から後ウマイヤ朝成立へ</p> <p>(2) イスラーム化の進行と後ウマイヤ朝の政体</p> <p>初期中世のキリスト教諸国【第3～4週】</p> <p>(3) イベリアの地理と”キリスト教”諸国：アストゥリアス＝レオン</p> <p>(4) カスティーリャの勃興とキリスト教圏の再編</p> <p>中世盛期における「レコンキスタ」の展開【第5～15週】</p> <p>(5) アルフォンソ6世の征服活動と異教徒統治</p> <p>(6) イベリア半島の「教会」と西欧との交流の再開</p> <p>(7) ムラービト朝とカスティーリャ＝レオンの危機</p> <p>(8) キリスト教圏における再植民とその後世への影響</p> <p>(9) トレードの翻訳活動</p> <p>(10) イベリア半島の国家意識：アルフォンソ7世・ピレネー諸国・ポルトガル</p> <p>(11) ムワッヒド朝の進出と騎士修道会</p> <p>(12) アルフォンソ8世の統治と戦争遂行型社会の形成</p> <p>(13) ローマ教皇庁の政策とイベリア諸国の再編</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

- (14) 「大レコンキスタ」とアルフォンソ10世の諸政策
(15) 全体のまとめ

【履修要件】

毎回多くの新しい知識を習得する必要があるため、学習能力・意欲に富む人が受講者として望ましい。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小テスト・コメント（40％）と期末試験の成績（60％）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

D.W.ローマックス 『レコンキスタ 中世スペインの国土回復運動』（刀水書房、1996年）

R.パートレット 『ヨーロッパの形成 950 - 1350年における征服、植民、文化変容』（法政大学出版局、2003年）

関哲行他 『世界歴史体系 スペイン史 1 古代－中世』（山川出版社、2008年）

小林功他 『地中海世界の中世史』（ミネルヴァ書房、2021年）

【授業外学修（予習・復習）等】

参考文献にはできるだけ目を通すこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系62

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、サルルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999))											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系63

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系64

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国末期のジョージア									
【授業の概要・目的】											
19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。 ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系65

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第一次世界大戦期の南コーカサス									
[授業の概要・目的]											
南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。											
[到達目標]											
第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。											
[授業計画と内容]											
第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、月曜3限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系66

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学大学院国際文化学研究所 衣笠 太郎 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ = 中東欧境界地域の歴史：シレジアを中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>中世以降の「ドイツ」の歴史・文化・社会を、現在のドイツ領域のみならず、広く旧ドイツ領やドイツ語圏の広がりをも踏まえつつ多角的に概観する。本講義では、主にシレジア（シュレージエン / シロンスク）地方に着目して授業を進める。19世紀初頭のナポレオンによるヨーロッパ中央部の支配以来、いわゆるドイツ地域ではドイツ・ナショナリズムが興隆し、1848年革命を経て、1871年のドイツ帝国創設 = 統一国家成立へと至ることになる。しかし、この19世紀以降のドイツ統一国家の形成・展開過程では、多様な言語・文化・宗派・帰属意識を持つ人々が入り乱れることになったがために、そこに居住する人々をめぐって包摂と排除が繰り返された。本講義では、そうした「ドイツ」の多様性や包摂・排除の側面に光を当てながら、シレジア地方の歴史について見ていくこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>・近現代のシレジア地方の歴史・社会・文化を学び、それを現代のドイツ = 中東欧やヨーロッパのあり方と比較・対照しながら、両者の共通点・相違点について理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：「ドイツ」「中東欧」とは何か 第2回 通史：中世のシレジア地方 第3回 通史：近世のシレジア地方 第4回 通史：近代のシレジア地方 第5回 通史：近現代のシレジア地方 第6回 シレジアの分離主義運動：先行研究と分析手法 第7回 シレジアの分離主義運動：歴史的前提 第8回 シレジアの分離主義運動：カトリック社会思想 第9回 シレジアの分離主義運動：混血国民論 第10回 シレジアの分離主義運動：史料の取り扱い 第11回 シレジアの分離主義運動：運動の立ち位置 第12回 シレジアの分離主義運動：大オーバーシュレージエン自由国 第13回 シレジアの分離主義運動：自治構想と分離主義 第14回 シレジアの分離主義運動：運動の終結 第15回 総括とフィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>授業に参加する前提として、ドイツ史や中東欧史の大まかな流れについて概説書などで予習しておくことが望ましい。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート（60点）、授業への参加状況（40点）

- ・授業の最後に授業の理解度ををはかるためのコメントペーパーを書いてもらうので、その内容により授業への参加状況を判断する。
- ・期末にレポートを課す。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

衣笠太郎 『旧ドイツ領全史 「国民史」において分断されてきた「境界地域」を読み解く』（パブリブ、2020年）ISBN:4908468443

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業で関連文献を紹介するので、それらを読んで授業内容の理解を深めるよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問については、コメントペーパーで受け付けます。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じtkinugasa@harbor.kobe-u.ac.jpにメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系67

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世イタリアの反乱の政治文化と社会									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義のテーマは、中世後期イタリアの政治反乱である。</p> <p>中世のイタリアでは、都市コムーネとそこから展開する領域国家を舞台に、高度な政治文化が発達し、広範な層の人々が「政治」行為に関与した。本講義ではそのような政治文化の一環として、中世後期にイタリア半島の人々を動かした政治「反乱」を取り上げる。</p> <p>具体的には、成長する諸領域国家と教会の緊張関係の中で、14世紀の教会国家領で生じた反乱を、一つの国家を越えたネットワークと半島内諸国家関係に焦点を当てて検討する。そして成長する国家権力、諸国家の相互関係と同盟、聖俗の権力の再編の複雑な絡み合の中で、国家、君主、党派、戦争、共通善という諸問題を貫く中世の政治行為としての反乱がなぜ、いかにして成立したかを、イタリア半島の固有の文脈の中で理解した上で、中世ヨーロッパ政治史の中に位置付けることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 中世イタリアとヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史に関する基本的事項を理解する。</p> <p>2. 中世イタリア半島の具体的な文脈の中で、政治反の原因、条件、現象形態の特徴を理解する。</p> <p>3. 2の理解を中世ヨーロッパ史のより広い文脈の中で理解する。</p> <p>4.1～3について、適切な参考文献を活用しながら理解と考察を深め、自らの言葉で論理的に説明することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション なぜ中世イタリアの政治反乱を学ぶのか</p> <p>第2～3回 中世イタリア半島の反乱をめぐる研究史上の諸論点及び課題と展望</p> <p>第4～7回 中世イタリア半島の政治と国家 都市コムーネ、「シニョリーア」、領域国家と諸国家間関係のシステム</p> <p>第8～9回 分裂・暴君・共通善 あるべき統治とゲルフィとギベッリーニをめぐる諸問題</p> <p>第10回 教会国家とイタリア半島</p> <p>第11～14回 八聖人戦争と中北部イタリアの政治反乱</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布し、随時参考文献を紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第二次世界大戦と現代世界									
【授業の概要・目的】											
<p>いうまでもなく、第二次世界大戦はその後の現代世界を強く方向づける出来事であった。最新の研究水準に則してこの戦争を理解することは、現代世界に身を置き、それを乗り越えようとする人々にとって、基礎的な教養といってもよい。主としてヨーロッパ現代史の文脈に据えて、きわめて複合的な第二次世界大戦の全体像を把握し、このトラウマ的経験がその後の世界に与えた影響を考察することが授業の課題となる。なお、2023度の授業は2022年度の改訂版であり、重複する内容が多く含まれる。</p>											
【到達目標】											
<p>高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦とは (3回) (2) 1930年代のヨーロッパ (2回) (3) 第二次世界大戦の展開 1939年9月～1941年12月 (3回) (4) 第二次世界大戦の展開 1941年12月～1943年2月 (3回) (5) 第二次世界大戦の展開 1943年2月～1945年8月 (3回) (6) 総括 (1回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中立という選択肢：アイルランドの第二次世界大戦									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。この授業もまた2022年度の改訂版であり、重複する内容が多いが、2023年度は特に、エールの首相としてイギリスとアメリカから執拗な参戦圧力を受けながらも中立を堅持したエールの首相デ・ヴァレラに注目する。20世紀の戦争において中立はどれほど有効な選択肢たりうるか、授業の中核的な問いはこれである。</p>											
【到達目標】											
<p>中立国の視点から第二次世界大戦を把握すると同時に、中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦の中立国（1回） (2) アイルランド・ナショナリズムとデ・ヴァレラ（2回） (3) 中立の選択（1回） (4) 「緊急事態」の到来（1回） (5) 検閲国家（1回） (6) ドイツの脅威（1回） (7) 参戦圧力と南北統一（1回） (8) アメリカン・ファクター（1回） (9) 「友好的中立」と戦争協力（1回） (10) 北アイルランドの大戦経験（1回） (11) 戦後（1回） (12) 「デ・ヴァレラのアイルランド」（1回） (13) 総括（1回）</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の授業を受講していることが望ましい。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系70

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系71

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部 助教 岸本 廣大			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「国際社会」としての古代ギリシア ポリスや連邦の外交									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアは、ポリスをはじめ、多様な共同体が並存し、相互にやりとりする「国際社会」であった。本講義では、そのような理解を前提に、古代ギリシア世界の共同体の特徴と、それらによって展開された外交的やりとりについて学ぶ。具体的には、古典期からローマ時代まで（およそ前5世紀～紀元2世紀）のポリスや連邦を対象とし、条約、諸特権の付与、紛争解決、使節演説といったトピックごとに講義する。それらを通じて、アテナイやスパルタといった特定の共同体の歴史ではない、「国際社会」としての古代ギリシアの特質を、歴史学的に理解することが、本講義の目的となる。また、そうした古代ギリシアの特質が、近現代においてどのように受容されたのかについても本講義では扱いたい。それによって後世における歴史の利用や可変的な一面について理解し、歴史に対する批判的な見方を学ぶことも目的の一つとなる。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)古代ギリシア史の基本的な事項や研究史上の論点を理解することができる。 (2)古代ギリシアの共同体の特徴および外交活動について、史料に基いて理解し、その意義を歴史学的に考察することができる。 (3)近現代における古代史の受容を理解し、歴史の利用に対して批判的に考えることができる。 (4)以上の(1)～(3)について、参考文献を活用しながら、自らの言葉で説明することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>具体的には以下のように進めるが、受講生の理解度などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 古代ギリシア史の概説とそれを学ぶ意義 2.ポリスとは何か? コペンハーゲン・ポリス・センターの研究から 3.連邦とは何か? 最新の研究動向から 4.条約と「独立」(1)「普遍平和」 5.条約と「独立」(2)アウトノミア 6.特権の相互付与(1)プロクセニア 7.特権の相互付与(2)市民権 8.紛争解決(1)仲裁 9.紛争解決(2)外国人判事 10.使節の演説(1)使節を務めた「国際人」 11.使節の演説(2)外交演説使節の演説 12.外交におけるコミュニケーションとメディア 13.ローマ支配下における「外交」(1)リュキア(小アジア) 14.ローマ支配下における「外交」(2)ギリシア本土 15.近現代における古代ギリシア史の「受容」 フィードバックの方法は、授業中に説明します。 											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

本講義では特別な前提知識は必要としないが、受講前に高校世界史の教科書で本講義に関連する部分（古代ギリシア、ローマ）を読んでおくことを推奨する。さらに、大学生向けの西洋史入門書や初回で紹介するような古代ギリシアに関する概説書にも目を通すのがより望ましい。

【成績評価の方法・観点】

・ 期末レポート(60点)

提示されたテーマについて、講義の内容を踏まえ、参考文献を活用したうえで、自身の考えを論理的に述べることを問う。

・ 平常点(40点)

毎回、講義の内容に関する課題を出す。課題は毎回授業の最初に提示し、対面授業であればその授業の最後に、オンライン授業であればPandAなどで1週間を目安に提出してもらう。それを通じて講義の内容の理解度を確認する。なお、課題への回答に加えて、講義内容についての質問などを書いてよい。その内容に応じて適宜加点することもある。

【教科書】

毎回講義の内容をまとめた資料を、PandAなどを通じて配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・ 毎回出す課題については、次回の授業の冒頭で解説と前回の内容の復習を行うので、課題を中心に授業内容を復習して理解を深め、さらに参考文献などを読んで自分なりの考えをまとめておくこと。

・ 毎回の授業で示す参考文献に可能な限り目を通し、予習すること。

（その他（オフィスアワー等））

講義に関する質問には、授業後に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系73

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 桑山 由文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝政前期のアテネとギリシア知識人									
[授業の概要・目的]											
ローマ帝国は共和政期半ばの前2世紀以降，東方ギリシア文化圏への支配を拡大していった。本講義はとくにギリシア本土のアテネに焦点をあて，この都市がローマ帝政前期にいかなる変容を遂げていったのかを検討すると同時に，ギリシア文化圏出身の知識人がそうしたアテネ，さらにはローマ帝国中央とどのような関係を築いていたのかを検討する。											
[到達目標]											
ローマ帝国支配下のギリシア文化圏およびその史的展開について一定の認識を得ることを到達目標とする。											
[授業計画と内容]											
以下のような流れで実施する。											
1. ガイダンス（1回） 2. 共和政期ローマ帝国の東方進出（2回） 3. アウグストゥス一族とアテナイ（4回） 4. 「アテネ」への変容：1，2世紀ローマ帝国の東方統治とギリシア知識人（6回） 5. 期末試験・フィードバック（2回）*フィードバック方法は授業中に説明											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末の筆記試験（80点） 講義内容に即した記述ができているかどうかと，到達目標の達成度とに基づき評価する。 平常点（20点） 講義中に何度か行うミニレポートおよび授業態度											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
講義内容，配布資料について，授業前に見直しておくこと。授業中に別途指示することもありうる。											
（その他（オフィスアワー等））											
講義内容に関して不明な点があれば，積極的な質問を期待する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系74

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		二つの世界大戦と国際人道支援 イギリスのNGOに注目して									
【授業の概要・目的】											
イギリス史上に顕著な活発なチャリティ活動は、その範囲を国内に限ることなく、帝国全土および世界にまで広がっていた。この文脈を踏まえたうえで、本講義では二つの世界大戦をはさむ時期に実践された国際人道支援の具体的な諸相を、主として3つのイギリス系国際NGOに注目して描いていく。相互不信と敵意で引き裂かれた世界で、民間の「善意」がいかなる意味を持ち得たのかを検討する。国家や国民とは異なる主体に即して戦争と平和の歴史を考えたい。											
【到達目標】											
国際NGOの活動に触れることを通して、二つの世界大戦に彩られた20世紀前半の歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
大づかみに構図を把握した方が理解が進むので、以下のテーマに従って、講義を進める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．序論 コンテキストの説明（1～2回） 2．三つのNGO イギリス赤十字、セーブ・ザ・チルドレン、オックスファム（3～5回） 3．20世紀初頭～第一次世界大戦（6～8回） 4．戦間期（9～10回） 5．第二次世界大戦（11～12回） 6．戦後期（13回） 7．結論と展望（14回） 8．フィードバック（15回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度確認しておくとう理解が深まるであろう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系75

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ポスト・ナポレオン期の国際秩序とバーバリ諸国問題 イギリスのチャリティ団体に 注目して										
【授業の概要・目的】											
19世紀初頭に、長く続いた大西洋での黒人奴隷貿易と、地中海での「もうひとつの奴隷貿易」、すなわち北アフリカのバーバリ諸国による白人の虜囚化と身代金ビジネスは、ナポレオン戦争終結後に形成される新たな国際秩序において、原則として否定された。本講義では、あるイギリスのチャリティ財団が行った19世紀初頭の虜囚救出実践から、国際的な「もうひとつの奴隷貿易」禁止のプロセスと大西洋奴隷貿易の廃止、そして新たな国際秩序の形成のかかわりを究明する。											
【到達目標】											
相対的に知られていない「もうひとつの奴隷貿易」の基本的な知識を獲得するとともに、ポスト・ナポレオン期の国際秩序の特性を理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
大づかみに構図を把握した方が理解が進むので、以下のテーマに従って、講義を進める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．序論 コンテキストの説明（1～2回） 2．近世地中海と白人奴隷（3～5回） 3．ベットン財団の沿革（6～7回） 4．19世紀初頭の虜囚救出実践（8～11回） 5．国際秩序とバーバリ諸国（12～13回） 6．結論と展望（14回） 7．フィードバック（15回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する資料を予習・復習に用いること。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系76

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「他者」をめぐる様々な歴史的表象と言説を考える									
[授業の概要・目的]											
<p>学術的なドイツ語文献の読解・運用能力を高める目的で、ドイツ近世史をテーマとする研究テキストを購読する。いわゆる大航海時代以降、複数の世界が接続されたことでヨーロッパは様々な他者と邂逅した。このようなテーマに関しては、新世界やアジアに進出していった南欧諸国やフランドル地方についての研究が注目されがちであるが、実は直接の接触がほぼなかったヨーロッパ内陸のドイツ語圏にもその余波はあった。「アメリカ」はバロック期のドイツ語圏にどのような影響を与えたのか、そしてその「他者」認識は、ヨーロッパ内の「他者」(宗教的他者、イスラム教)の把握にどのように反映したのだろうか。この時代は、ドイツ語圏の歴史上、「他者」とのコンタクトが起こした戸惑いや違和感が、特に様々な表象として残された時代である。多様性が叫ばれる現代こそ、多様性が意識され始めた時代を振り返ることは意味があるだろう。</p> <p>本講義では、これらの問題を扱う以下の三つのテキストの精読を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Karl Kohut, Von der Weltkarte zum Kuriositaetenkabinet Amerika im deutschen Humanismus und Barock (1995) ・ Dominik Sieber, Jesuitische Missionierung, priesterliche Liebe, sakramentale Magie (2005) ・ Eckhard Leuschner, Das Bild des Feindes, Konstruktion von Antagonismen und Kulturtransfer im Zeitalter der Tuerkenkriege (2013) <p>出席者は日本語翻訳をあらかじめ各自用意し、割り当てられた担当部分については、学期中に必ず1度は授業中に発表する。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すことが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語の検定試験として世界的に有名なゲーテ試験と言われる試験の準備本などを用いて、語彙や文法も勉強する。授業内容によっては適宜、映像・画像を用いながら授業を進めていくので、ドイツ語を勉強するモチベーションの維持のように、この授業を捉えてくなくても構わない。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション											
第2回-第14回 テキスト講読											
第15回 フィードバック											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[履修要件]

ドイツ語の基礎文法を既習していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点・授業中小テスト（60パーセント）、担当回の翻訳（40パーセント）で総合的に勘案する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は、決められたテキストの指定範囲を事前に予習してきて、皆の前で翻訳する。
ドイツ語文法や語彙の小テストは、特に準備は要求しないが、間違ったところを復習するようにする。

（その他（オフィスアワー等））

上記テキストの全てを読むのではなく、出席者の希望に応じて割り当てを決めるため、自分で読みたい部分の希望を出したい人は、必ず授業の最初の回は出席するようにしましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「他者」をめぐる様々な歴史的表象と言説を考える									
[授業の概要・目的]											
<p>学術的なドイツ語文献の読解・運用能力を高める目的で、ドイツ近世史をテーマとする研究テキストを購読する。いわゆる大航海時代以降、複数の世界が接続されたことでヨーロッパは様々な他者と邂逅した。このようなテーマに関しては、新世界やアジアに進出していった南欧諸国やフランドル地方についての研究が注目されがちであるが、実は直接の接触がほぼなかったヨーロッパ内陸のドイツ語圏にもその余波はあった。「アメリカ」はバロック期のドイツ語圏にどのような影響を与えたのか、そしてその「他者」認識は、ヨーロッパ内の「他者」(宗教的他者、イスラム教)の把握にどのように反映したのだろうか。この時代は、ドイツ語圏の歴史上、「他者」とのコンタクトが起こした戸惑いや違和感が、特に様々な表象として残された時代である。多様性が叫ばれる現代こそ、多様性が意識され始めた時代を振り返ることは意味があるだろう。</p> <p>本講義では、これらの問題を扱う以下の三つのテキストの精読を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Karl Kohut, Von der Weltkarte zum Kuriositaetenkabinett Amerika im deutschen Humanismus und Barock (1995) ・ Dominik Sieber, Jesuitische Missionierung, priesterliche Liebe, sakramentale Magie (2005) ・ Eckhard Leuschner, Das Bild des Feindes, Konstruktion von Antagonismen und Kulturtransfer im Zeitalter der Tuerkenkriege (2013) <p>出席者は日本語翻訳をあらかじめ各自用意し、割り当てられた担当部分については、学期中に必ず1度は授業中に発表する。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すことが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語の検定試験として世界的に有名なゲーテ試験と言われる試験の準備本などを用いて、語彙や文法も勉強する。授業内容によっては適宜、映像・画像を用いながら授業を進めていくので、ドイツ語を勉強するモチベーションの維持のように、この授業を捉えてくなくても構わない。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション											
第2回-第14回 テキスト講読											
第15回 フィードバック											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[履修要件]

ドイツ語の基礎文法を既習していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点・授業中小テスト（60パーセント）、担当回の翻訳（40パーセント）で総合的に勘案する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は、決められたテキストの指定範囲を事前に予習してきて、皆の前で翻訳する。
ドイツ語文法や語彙の小テストは、特に準備は要求しないが、間違ったところを復習するようにする。

（その他（オフィスアワー等））

上記テキストの全てを読むのではなく、出席者の希望に応じて割り当てを決めるため、自分で読みたい部分の希望を出したい人は、必ず授業の最初の回は出席するようにしましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系78

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第IV章を講読する。											
Daniel Beauvois, La Pologne. Des origines à nos jours, Éditions du Seuil: Paris, 2010.											
本書は、フランスの歴史家によるポーランド史の通史である。第IV章では18世紀のポーランド分割について論じている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系79

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第VII章を講読する。											
Daniel Beauvois, La Pologne. Des origines à nos jours, Éditions du Seuil: Paris, 2010.											
本書は、フランスの歴史家によるポーランド史の通史である。第VII章では第二次世界大戦時の状況について論じている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系80

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。 <div style="text-align: right;">(1862) [ゲルツ エン「終わり始まり」]</div> <p>ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。 <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

歴史基礎文化学系81

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
前記に引き続き以下の文書をテキストとする予定である。 (1862) [ゲルツ エン「終わり始まり」] 後期のみ受講者にも支障のないよう、前期に読んだ部分の日本語要約を配布した上で、新しい章(書簡)から講読していく予定。 ただし、事情によってはテキストを変更する可能性もある。 第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーは、火曜4限とする。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系82

科目ナンバリング		U-LET26 36961 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第5章以降を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。第5章は、18世紀のポーランド分割の時代を扱っている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、前年度に引き続き、古典期・ヘレニズム期の経済史を刷新したAlain Bresson, <i>The Making of the Ancient Greek Economy</i> (2016) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（同時双方向型メディア授業、1回） 2. テキスト前半部の復習と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、2回） 3. テキスト講読と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、3回） 4. 受講生の研究報告（対面授業、8回、7月15日（土）と7月22日（土）に行う） 5. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。</p>											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

【成績評価の方法・観点】

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

【教科書】

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

配布したテキストの事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系84

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。 後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の研究報告と関連文献の講読ならびに遺跡等の紹介（同時双方向型メディア授業、6回） 2. 受講生の研究報告と関連文献の講読（対面授業、8回、1月27日（土）と1月28日（日）に行う） 3. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。</p>											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布したテキストの事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史を中心に扱うが、テキストの一部は近世も対象としてる。</p> <p>今回のテーマは中・近世における「領土territory」である。</p> <p>「領土」とは何だろうか。歴史学のみならず、広く人文諸科学において「領土」は近代主権国家論の中核をなす。近年の前近代史研究は「領土」に対する排他的統治権を行使する主権国家概念を、前近代の現実に基づいて批判的に乗り越えてきた。「領土」は「西洋近代」の思考と行動の枠組みと不可分に結びついているが故に、歴史学を越えて思想、文化、社会を扱う諸分野を横断する重要性を持つ。ゆえに、近代的「領土」観の相対化とともに、前近代の「領土」の現実と「領土」観を統合的に明らかにしてゆくことが、ヨーロッパ前近代史研究が知の枠組みの刷新に活かされるための重要な道の一つであると言える。</p> <p>今回の演習では、この問題に関する最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ 授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・ 専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・ 各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業は総合人間学部、人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>Mario Damen, Kim Overlaet (eds), Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe, Amsterdam University Press, 2022.</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回はイントロダクションとして取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また中世史を中心にヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、補足的な導入用文献の配布を行う。</p>											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

第2回～第14回は文献Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europeの読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。各回の内容は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2回 Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe: An Introduction (Mario Damen and Kim Overlaet)

Part 1 The Multiplicity of Territory

第3回 第1章 Were There ‘ Territories ’ in the German Lands of the Holy Roman Empire in the Fourteenth to Sixteenth Centuries? (Duncan Hardy)

第4回 第2章 Beyond the State: Community and Territory-Making in Late Medieval Italy (Luca Zenobi)

Part 2 The Construction of Territory

第5回 第3章 Clerical and Ecclesiastical Ideas of Territory in the Late Medieval Low Countries (Bran van den Hoven van Genderen)

第6回 第4章 Marginal Might? The Role of Lordships in the Territorial Integrity of Guelders, c. 1325-c. 1575. (Jim van der Meulen)

第7回 第5章 Demographic Shifts and the Politics of Taxation in the Making of Fourteenth-Century Brabant (Arend Elias Oostindier and Rombert Stapel)

第8回 第6章 From Knights Errant to Disloyal Soldiers? The Criminalisation of Foreign Military Service in the Late Medieval Meuse and Rhine Regions, 1250-1550 (Sander Govaerts)

第9回 第7章 Conquest, Cartography and the Development of Linear Frontiers during Henry VIII ’ s Invasion of France in 1544-1546 (Neil Murphy)

第10回 第8章 From Multiple Residences to One Capital? Court Itinerance during the Regencies of Margaret of Austria and Mary of Hungary in the Low Countries (c. 1507-1555) (Yannick De Meulder)

Part 3 The Representation of Territory

第11回 第9章 Heraldry and Territory: Coats of Arms and the Representation and Construction of Authority in Space (Mario Damen and Marcus Meer)

第12回 第10章 The Territorial Perception of the Duchy of Brabant in Historiography and Vernacular Literature in the Late Middle Ages (Bram Caers and Robert Stein)

第13回 第11章 Imagining Flanders: The (De)construction of a Regional Identity in Fifteenth-Century Flanders (Lisa Dements)

第14回 第12章 Mapping Imagined Territory: Quaresimo ’ s Chrographia and Later Franciscan Holy Land Maps (Marianne Ritsema van Eck) / Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe: A Conclusion (Mario Damen and Kim Overlaet)

第15回 フィードバック

[履修要件]

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

西洋史学（演習II）(3)へ続く

西洋史学（演習II）(3)

[教科書]

Mario Damen, Kim Overlaet (eds) 『Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe』 (Amsterdam University Press, 2022.) ISBN:9789463726139 (テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他（オフィスアワー等）)

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためにお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間とオフィスアワーに受け付ける他、メール連絡にも対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
西洋中世史学の研究方法と研究成果を表現し他者に伝える方法を学ぶ。そのためにまず西洋中世史料論を学び、ついで各参加者が自らの研究課題を定め、具体的な研究を実践し、研究報告を行う。											
【到達目標】											
各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 3回生は、自らの研究課題を選択して史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質を学ぶ。 4回生は、自らの研究を深化発展させ、まとめ上げる力を身に着ける。											
【授業計画と内容】											
研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習に一部の時間を充てる。今年度はJ・アーノルド『中世史とは何か』、高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』第2部「西洋中世社会を読み解くための史料」を参考資料としつつ、史料類型を学び、各回に具体的な史料を取り上げ学習する。 次いで、参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。その際、研究を進めるプロセスの各ステップにおいて習得すべき事柄に毎回焦点を当てる。 大学院人間・環境学研究科、総合人間学部、文学研究科の授業と共通。 基本的に以下の計画にそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。											
第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。											
第2回 『西洋中世学入門』序論「西洋中世学の世界」（高山博・池上俊一）、『中世史とは何か』第1章「中世を枠付ける リアルとフィクション」											
第3回 『中世史とは何か』第2章「中世を追跡する / 史料と痕跡」											
第4回 『西洋中世学入門』第11章 「統治・行政文書」（佐藤彰一）											
第5回 『西洋中世学入門』第12章 「法典・法集成」（直江真一）											
第6回 『西洋中世学入門』第13章 「叙述史料」（有光秀行）											
第7回 『西洋中世学入門』第14章 「私文書」（徳橋曜）											
第8回 『西洋中世学入門』第15章 「教会文書」（甚野尚志・印出忠夫）											
第9回 受講生の研究発表 -先行研究を整理し問を設定する											
第10回 受講生の研究発表 -史料の性格を把握する											
第11回 受講生の研究発表 -史料を分析する											
第12回 受講生の研究発表 議論を論理的に組み立てる											
第13回 受講生の研究発表 自説を位置付ける・意義付ける											
第14回 研究発表の振り返りと総合討論											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

高山博・池上俊一（編）『西洋中世学入門』（東京大学出版会，2005年）
ジョン・H・アーノルド（著），図師宣忠・赤江雄一（訳）『中世史とは何か』（岩波書店，2022年）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

演習での研究は、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習ではそれぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系87

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 講師		小山 哲 安平 弦司	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパの近世史上の主要な問題について、テーマごとに研究上の論点を整理し、多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>C. Scott Dixon and Beat Kümin (eds.), <i>Interpreting Early Modern Europe</i>, Routledge: London and New York, 2020.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 講師		小山 哲 安平 弦司	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておく必要がある。
- ・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系89

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
【授業の概要・目的】											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティヴを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Glenda Sluga, <i>The Invention of International Order: Remaking Europe after Napoleon</i> (Princeton University Press, 2021)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系90

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系91

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世ヨーロッパの政治反乱									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義のテーマは、中世ヨーロッパの政治反乱をめぐる諸論点である。 国家、国家的な諸権力、統治者、支配者に向けられる反乱は、政治行為であるとともに、人間集 団の慣習的行為と世界観に根差した広義の文化である。それゆえ、社会史や文化史研究の主要研究 テーマの一つであり、また中世の政治と国家をボトムアップの視点からとらえることを可能にして くれる私たちに開かれた数少ない窓の一つでもある。 本講義ではこのテーマに関わる研究史上の諸論点を概観し、課題と展望を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)中世ヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史の基本的な事項や研究史上の論点を理解する ことができる。 (2)(1)について、適切な参考文献を活用しながら考察を深め、自らの言葉で論理的に説明するこ とができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション なぜ中世ヨーロッパの政治反乱を学ぶのか 第2～3回 「革命」か「反乱」か 中世の政治的変革をめぐる諸論点 第4回 祝祭・慣習・集合心性 歴史人類学的社会史における反乱 第5回 民衆・エリート・社会移動 第6～8回 中世国家論と政治反乱 第9～10回 暴力とコミュニケーション 第11～12回 集団・同盟・ネットワーク 第13回 反乱の主体 第14回 空間とスケール 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートにより評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
- ・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他は授業後やオフィスアワーに受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 安平 弦司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世オランダにおけるカトリックとジャンセニスム論争									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のオランダ共和国は、改革派（カルヴァン派）を唯一の公的教会とするプロテスタント国家であり、かつ多宗派共存社会でもあった。オランダのカトリック共同体は、差別的待遇を受けながらも17世紀の過程で再建されていったが、ジャンセニスム論争を経て、1723年にユトレヒト教会分裂を経験した。ジャンセニスムとは、近世カトリック教会内部で異端視された思想である。教会分裂により、オランダのカトリック共同体は、ローマ教皇に認可されるもプロテスタントのオランダ政府には否認されたローマ・カトリックと、教皇に否認されるもオランダ政府には認可された古カトリック（ジャンセニスト）に分裂し、両者の分断は現在も続いている。本講義では、ジャンセニスム論争を通じて、17・18世紀のオランダ共和国のカトリック共同体の復興と内部分裂を考察する。そうすることで、宗教改革後の近世ヨーロッパにおける複数宗派の共存・競合という問題を多角的に理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパにおける宗教的多様性を、プロテスタント国家オランダにおけるカトリック共同体の復興と内部分裂を通じて考察できるようになる。 ・宗教問題、特にカトリックとジャンセニスム論争を通じて近世ヨーロッパを理解するための視座を得る。 											
【授業計画と内容】											
<p>第5回までの講義でオランダ共和国における宗派共存・競合についての概略を示した後、第6回以降でオランダ共和国におけるジャンセニスム論争を多角的に分析する。なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：近世オランダのカトリックについて学ぶ意義 2. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革 (1) 3. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革 (2) 4. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革 (1) 5. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革 (2) 6. ジャンセニスム論争の教会史 (1) 7. ジャンセニスム論争の教会史 (2) 8. ジャンセニスム論争の政治文化史 (1) 9. ジャンセニスム論争の政治文化史 (2) 10. ジャンセニスム論争の社会経済史 (1) 11. ジャンセニスム論争の社会経済史 (2) 12. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (1) 13. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (2) 14. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (3) 15. まとめとフィードバック 											
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系93

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮三国時代墓制の変遷と棺・槨・室									
【授業の概要・目的】											
3～6世紀の朝鮮半島と日本列島の各地では、多大な労力を用いて多様な古墳が築造された。本講義では、棺・槨・室を中心とする埋葬施設の構造と空間原理などに着目しつつ、朝鮮半島各地の三国時代墓制の変遷過程を検討する。											
【到達目標】											
朝鮮三国時代の墓制の展開と特質についての基本的な知識を得る。 墓制を比較研究するための方法論を学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のような順序で講義を進める											
第1回 墓制を比較検討する視角をめぐって											
第2回 考古学からみた墓制・葬制											
第3回 棺・槨・室をめぐる諸問題(1) - 棺・槨・室の定義											
第4回 棺・槨・室をめぐる諸問題(2) - 木棺・木槨の構造復元法											
第5回 棺・槨・室をめぐる諸問題(3) - 墳丘との関係											
第6回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(1) - 新石器時代～初期鉄器時代 -											
第7回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(2) - 原三国時代 -											
第8回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(3) - 木槨墓における「棺」 -											
第9回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(4) - 石槨墓における「棺」 -											
第10回 横穴式石室の受容と棺の変化(1) - 錦江流域の場合(1)											
第11回 横穴式石室の受容と棺の変化(2) - 錦江流域の場合(2)											
第12回 横穴式石室の受容と棺の変化(3) - 栄山江流域の場合											
第13回 横穴式石室の受容と棺の変化(4) - 洛東江以西地域の場合											
第14回 横穴式石室の受容と棺の変化(5) - 洛東江以東地域の場合											
第15回 朝鮮三国時代墓制の特質 日本列島の比較から											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系94

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		瓦センの製作技術の検討 朝鮮半島出土例を中心に									
[授業の概要・目的]											
朝鮮半島から出土した瓦センの観察に基づき、瓦センの製作技術の分析方法と歴史的評価について検討する。											
[到達目標]											
朝鮮半島から出土した瓦センの検討を通して、考古資料を観察・記録・解釈するための基本的な知識と方法を身につける。 東アジア的な視角から瓦セン研究を進めるための知識と方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
おおむね以下のとおり講義をおこなう。 第1回 朝鮮半島瓦センの研究史 第2回 平瓦の製作技術をめぐって(1) 佐原眞「平瓦桶巻作り」を読む 第3回 平瓦の製作技術をめぐって(2) - 崔兌先「韓国平瓦製作法の変遷に関する研究」を読む - 第4回 平瓦桶巻作りの民俗例 ビデオ『製瓦匠』をみる 第5～7回 朝鮮半島の平瓦を観察する 第8～10回 朝鮮半島のセンを観察する 第11～第13回 高句麗瓦を観察する 第14回 朝鮮半島瓦センの特質 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポート試験70% 平常点評価30%(講義についての小レポートなど)											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
講義中、数回にわたって瓦の観察をおこない、その成果報告をもとに議論を進める。そのため、観察した瓦に関連する学習や、観察成果のレポート作成などを行う必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系95

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		前方後円墳の世界									
【授業の概要・目的】											
<p>百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録(2019年)も相俟って、このところ前方後円墳への社会的関心が高い。また古墳時代は、国家形成期として考古学・文献史学からの学問的注目を集めてきた。本講義では、前方後円墳を主たる分析材料として、国家形成理論のひとつ「権力資源論」を導きの糸にしなが、ら、「イデオロギー」「経済」「軍事」「領域」「社会関係」の側面から、前方後円墳をはじめとする大型古墳が日本列島の国家形成に決定的な役割をはたしたことを解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>前方後円墳というモニュメント的な構築物から国家形成という広大な歴史事象に迫るための、考古学的な手法や手順を理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 前方後円墳の世界【3週】 3. 近年の国家形成論【2週】 4. 前方後円墳とイデオロギー【2週】 5. 前方後円墳と経済【2週】 6. 前方後円墳と軍事【1週】 7. 前方後円墳と領域【2週】 8. 前方後円墳と社会関係【2週】</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書) 都出比呂志 『前方後円墳と社会』(塙書房、2005年) ISBN:4827311978 小林行雄 『古墳時代の研究』(青木書店、1961年) ISBN:4250610012</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

下垣仁志 『古墳時代の国家形成』 (吉川弘文館、2018年) ISBN:9784642093521

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系96

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		前方後円墳の時代									
【授業の概要・目的】											
<p>木簡などの文字史料に恵まれている7世紀以後と対照的に、古墳時代の同時代史料は希少であり、当該期の主要検討対象は考古資料にならざるを得ない。律令国家の前史をなす重要な古墳時代の集団内/間関係を究明するうえで、前方後円墳をはじめとする古墳がはたす役割はきわめて大きい。本講義では、前方後円墳の汎列島/特定地域/特定古墳群などにおける展開様相を俎上に載せ、古墳時代の社会・政治状況の解明を目指す。</p>											
【到達目標】											
古墳時代を代表する考古学的遺構である前方後円墳の社会的・政治的意義について、複数の側面から理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 前方後円墳の概要【1週】 3. 古墳観の推移【3週】 4. 古墳群と前方後円墳【2週】 5. 前方後円墳の地域展開【3週】 6. 前方後円墳の列島展開【3週】 7. 前方後円墳と古代史の接点【2週】</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>下垣仁志 『古墳時代の国家形成』(吉川弘文館、2018年) ISBN:9784642093521 和田晴吾 『古墳時代の王権と集団関係』(吉川弘文館、2018年) ISBN:9784642093507 近藤義郎 『前方後円墳の時代』(岩波書店、1983年) ISBN:978-4000045469 (文庫(岩波文庫、2020</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

年)あり)

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系97

科目ナンバリング		U-LET49 28007 LJ36										
授業科目名 <英訳>		博物館学III(講義) Museum Science III				担当者所属・ 職名・氏名		京都国立博物館 学芸課 特任研究員				宮川 禎一
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		博物館学 (博物館資料論)										
【授業の概要・目的】												
博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。												
【到達目標】												
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館・美術館の成り立ちと意義 - 博物館とはなにかを理解する 2 作品の種類と性質 - 資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する 3 博物館における作品の収集とは - 寄託・寄贈・購入の実態を理解する 4 作品の保存処理 - 作品を科学的に守る方法を理解する 5 収蔵庫の要件 - 保存環境の問題を理解する 6 作品の貸借と作品保護 - 保存と公開のあいだにある問題を理解する 7 展覧会の作り方 1 - 展示を構想し出品をめざすことの意味 8 展覧会の作り方 2 - 展示に際しての諸問題があることを理解する 9 展覧会図録の作り方 - 鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する 10 良い展覧会とは何か? - 人と作品の関係と展覧会の意義を考える 11 実際に展示を見学しよう - 実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える 12 博物館美術館の未来 - デジタル化の行方と未来の展示を考える 13 世界の博物館・美術館 - 世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える 14 学芸員になるには - 求められる学芸員の資質に関して考える 15 博物館をめぐるディスカッション - これまでの講義を受けて学生と討論する 												
【授業計画と内容】												
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館美術館の成り立ちと意義 2 作品の種類と性質 3 博物館における作品の収集 4 作品の保存処理 5 収蔵庫の要件 6 作品の貸借と作品保護 7 展覧会の作り方 (1) 8 展覧会の作り方 (2) 9 展覧会図録の作り方 10 良い展覧会とは何か? 11 実際に展示を見学しよう (京都大学総合博物館の展示見学) 12 博物館美術館の未来 13 世界の博物館・美術館 												
----- 博物館学III(講義)(2)へ続く -----												

博物館学Ⅲ(講義)(2)

- 14 学芸員になるには
15 博物館をめぐるディスカッション

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

受講態度およびレポートの成績で評価する。
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

【教科書】

講義中に適宜資料等を配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

【授業外学修(予習・復習)等】

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義(例えば土曜日午後など)を行うのでそのつもりでいてほしい。

【履修上の注意点】

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系98

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36									
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉川 真司 非常勤講師 高木 康裕 非常勤講師 高野 紗奈江 非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 今村 凌 非常勤講師 村上 孟謙 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 岩永 紘和 非常勤講師 山下 耕平				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(1)										
[授業の概要・目的]											
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、考古学・日本史学(前近代)の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。											
[到達目標]											
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。											
[授業計画と内容]											
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。											
<p>高木康裕「考古資料からみた旧人・新人の行動的現代性」 高木康裕「アフリカ中期・後期石器時代の石器とビーズ」 高野紗奈江「'縄文'にみる日本列島の先史文化」 高野紗奈江「'縄文'にみる西日本縄文時代後期」 加藤麻子「日本における律令法導入の意義」 今村 凌「日本古代の財政システムと文書」 村上孟謙「日本古代の寺院をめぐる政治と制度」 佐藤早紀子「平安時代の貴族装束について」 田口佳奈「平安時代の思想文化」 勅使河原拓也「鎌倉幕府の権力と発給文書」 伊藤啓介「渡来銭と中世貨幣経済」 伊藤啓介「気候変動と中世社会」 岩永紘和「戦国時代と宗教」 山下耕平「近世前期日本における「儒者」の登場と定着」 吉川真司：フィードバック</p>											
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

*コーディネーター：吉川真司

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は考古学・日本史学(前近代)、後期は東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・日本史学(近代)と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系99

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36									
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科				
							教授 吉川 真司 非常勤講師 斎藤 賢 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 小野木 聡 非常勤講師 中村 慎之介 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 田中 悠子 非常勤講師 法貴 遊 非常勤講師 酒嶋 恭平 非常勤講師 藤田 風花 非常勤講師 中辻 柚珠 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 林 和樹				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(2)										
[授業の概要・目的]											
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・日本史学(近代)の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。											
[到達目標]											
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。											
[授業計画と内容]											
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。											
斎藤 賢「中国戦国史研究と『史記』」 斎藤 賢「『史記』の描く戦国史像 戦国中期を中心に」 松島隆真「漢王朝の創設者たち 高祖劉邦と功臣たち」 小野木聡「唐代監察制度の展開」 中村慎之介「6世紀から12世紀の焼身供養」 辻田明子「メソポタミアの農業の神々への崇拜について」 田中悠子「イスラーム初期における異端」 法貴 遊「中世イスラーム圏のユダヤ人」 酒嶋恭平「古代ギリシア世界におけるペルシア戦争の記憶」 酒嶋恭平「ヘレニズム時代における地方誌の発展と普遍史叙述」 藤田風花「十字軍国家キプロス王国における宗派併存体制の成立過程」 中辻柚珠「ハプスブルク帝国の解体と後継諸国の誕生 チェコスロヴァキアを中心に」 平良聡弘「対日使節派遣運動の展開と日本開国 ペリー来航の再検討」 林 和樹「産業革命期の日本鉄道史」 吉川真司：フィードバック											
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

*コーディネーター：吉川真司

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40％）と、学期末のレポート（60％）にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は考古学・日本史（前近代）、後期は東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・日本史学（近代）と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。